

町内遺跡発掘調査等事業報告書Ⅹ 調査編

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）

史跡上之国花沢館跡分布調査

2006・3

上ノ国町教育委員会

序

昨年に引き続き降雪量が多く寒い冬でしたが、フキノトウも姿を見せ始め、ようやく春の息吹が感じられてきました。

教育委員会では、勝山館跡直下の町場の形成や町内の遺跡の所在を確認し、保存保護を図るために、平成9年度から詳細遺跡分布調査事業を行っています。これに前後して、勝山館跡直下の字上ノ国地区では6件の個人住宅建替えなどに伴う発掘調査が併行して実施され、現市街地のほぼ全域で縄文から江戸時代に至る遺構や遺物が発見されました。また、平成11年度に実施した重要文化財旧笹浪家住宅保存修理に伴う調査では、上ノ国のアイヌ文化を示す重要な知見も得られました。これらの経緯から、平成13年にこの地区を上ノ国市街地遺跡として登録し、遺跡の保護に努めてきました。

本書は、平成17年度に実施した上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）の住宅建替えに伴う発掘調査と、上ノ国館跡保存管理計画書策定のための史跡上ノ国花沢館跡の内容確認調査の報告書です。上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）の調査で、続縄文時代後期の生活面が確認されたのは本遺跡地内での新知見となりました。花沢館跡の調査では、昨年度の結果と併せ、この館は「コシャマインの戦い」前後から蠣崎季繁が亡くなる頃までの非常に短期間存続していたことが想定されました。

本町では、中高一貫教育を進めておりますが、その中で郷土研究を行うことを通して「ふるさとを豊かに語る力」の育成を目指しています。また、小学校でのふるさとを教材とした総合学習も積極的に進められており、自分たちの身近な足元から掘り出される様々な情報は上ノ国の先人の歩みを知る生きた教材として子どもたちに新鮮な驚きを与えています。

最後に、調査を行うにあたり、土地所有者の山本吉春氏、並びに上ノ国八幡宮宮司松崎辰彦氏をはじめ、地域の皆さまから多くのご支援・ご協力を賜りました。衷心より厚く感謝申し上げます。

また、事業の遂行に際し文化庁記念物課をはじめ、関係各機関の諸先生方からご指導ご鞭撻を賜りましたことに深く御礼申し上げます。

なお、来年度以降引き続きこの事業を継続していく予定でございますので、文化庁記念物課をはじめ、関係各機関、諸先生方にはより一層のご指導を賜りますようお願い致しまして、刊行のご挨拶といたします。

平成18年3月

北海道松山郡上ノ国町教育委員会

教育長 金子 廣

例 言

1. 本書は平成17年度に実施した町内遺跡発掘調査等事業の概要をまとめたものである。

2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

教育長 金子 廣

指導 史跡上之國勝山館跡調査研究専門員

仲野浩 東北芸術工科大学名誉教授

榎森進 東北学院大学教授

上ノ国町史跡整備検討委員会

仲野浩 東北芸術工科大学名誉教授

榎森進 東北学院大学教授

鈴木亘 鶴見大学講師

田中哲雄 東北芸術工科大学教授

宮本長二郎 東北芸術工科大学教授

渡辺定夫 東京大学名誉教授

主管 上ノ国町教育委員会事務局

文化財グループ

参事・主任学芸員 松崎水穂

主幹 小林 真

主査・学芸員 斎藤邦典

主事 淵田俊一郎

発掘調査員 塚田直哉

文化財アドバイザー 久末久義

調査担当者 斎藤邦典

発掘調査員 塚田直哉

調査補助員 笠谷奈智子

竹内江美子

作業員 池田泰子 井越祥子 大谷弓子

岡野景子 奥寺京子 勝田百香

川口泰子 鈴木千春 鈴木真澄

目黒加奈子 森美奈子

3. 本書の編集は、斎藤・塚田が協議の上、塚田が行なった。

遺構・遺物の実測図と図版等の作成は、調査補助員・作業員が行なった。

4. 本書に掲載した写真の撮影は、35mmカラーリバーサル及びカラーネガの2種類のフィルムを使用した。

5. 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付した。

6. 遺物の点数については、発掘現場での取り上げ点数を表す。

7. 土層の色調観察には、「新版標準土色帳」（農林水産技術会議事務局1993）を使用した。

8. 本書に掲載している遺物には観察表を付し、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。

また、表中の（ ）については、欠損などして残存している現存値を示す。

9. 出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会で管理・保管している。

10. 調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。記して感謝申し上げたい（敬称略）。

文化庁記念物課 坂井秀弥 岡田康博 玉田芳英 北海道教育庁文化課 田才雅彦 長沼孝

中田由香 北海道埋蔵文化財センター 越田賢一郎 伊達市噴火湾文化研究所 青野友哉 函館市教育委員会 野村祐一 五所川原市教育委員会 榊原滋高 札幌市 大沼忠春

引用参考文献

朝倉氏遺跡資料館 1983「県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書」

北海道庁 1916「北海道史」

上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」貿易陶磁研究第2号

大橋康二 2000「I 九州陶磁概論」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会

小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」貿易陶磁研究第2号

永井久美男 1998『近世の出土銭Ⅱ—分類図版編一』兵庫埋蔵銭調査会

永井久美男 2002「新版 中世出土銭の分類図版」兵庫埋蔵銭調査会

藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『研究紀要 第10輯』

(財)瀬戸市埋蔵文化財センター

松崎岩穂 1956「上ノ国村史」上ノ国町教育委員会

森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」貿易陶磁研究第2号

吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

本文目次

序／例言／引用参考文献	
本文目次／挿図目次／表目次／写真図版	
上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）	2
I 調査の概要	2
1. 調査にいたる経緯	2
2. 調査方法	2
3. 調査経過	2
4. 基本層序	2
II 遺構確認調査	3
1. 検出遺構	3
2. 出土遺物	5
史跡上之国花沢館跡	18
I 調査の概要	18
1. 調査にいたる経緯	18
2. 調査方法	18
3. 調査経過	18
4. 基本層序	18
II 遺構確認調査	21
1. 検出遺構	21
2. 出土遺物	32
小 括	33
1. 上ノ国市街地遺跡(山本吉春氏宅地点)	33
2. 史跡上之国花沢館跡	33
まとめ	34

報告書抄録

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 山本吉春氏宅 調査区位置図	1
第3図 遺構配置図他	4
第4図 出土遺物分布図1	9
第5図 出土遺物分布図2	10
第6図 柱列想定図	11
第7図 出土遺物1（土器）	12
第8図 出土遺物2（土器）	13
第9図 出土遺物3（土器）	14
第10図 出土遺物4（陶磁器・かわらけ）	15
第11図 出土遺物5（陶磁器・須恵器）	16
第12図 出土遺物6（陶磁器・銅製品）	17
第13図 遺構配置図	19
第14図 第1調査区平面図他	23
第15図 第2調査区平面図他	24
第16図 第3調査区平面図他	25
第17図 第4調査区平面図他	27
第18図 出土遺物7（陶磁器）	28
第19図 出土遺物8（陶磁器）	29
第20図 出土遺物9（陶磁器・銅製品）	30
第21図 出土遺物10（鉄製品）	31

表目次

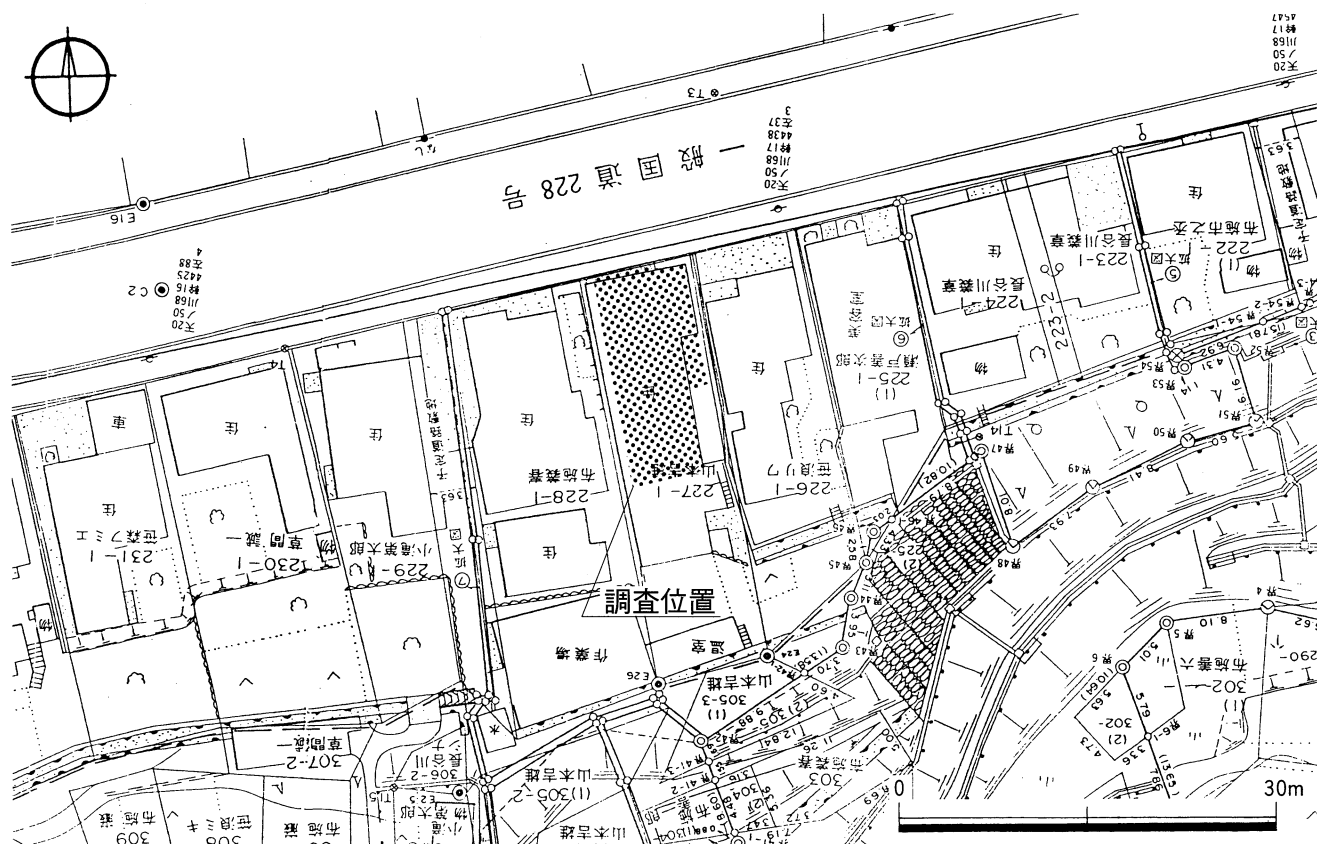
表1	東西北壁セクション (SPA~SPA')	5
表2	南北西壁セクション (SPB~SPB')	5
表3	山本宅出土遺物集計表 (土器)	6
表4	山本宅出土遺物集計表 (その他)	6
表5	山本宅出土遺物集計表 (陶磁器・かわらけ)	7
表6	山本宅 出土遺物観察表	7
表7	第1調査区 南北西壁セクション (SPA~SPA')	23
表8	第2調査区 南北東壁セクション (SPA~SPA')	24
表9	第2調査区 南北西壁セクション (SPB~SPB')	24
表10	第3調査区 南北東壁セクション (SPA~SPA')	25
表11	第3調査区 南北西壁セクション (SPB~SPB')	25
表12	第4調査区 南北北壁セクション (SPA~SPA')	31
表13	第4調査区 土壌1 (SPB~SPB')	31
表14	第4調査区 土壌2 (SPC~SPC')	31
表15	花沢館跡 出土遺物観察表	32
表16	花沢館跡 出土遺物集計表	33

写真図版

PL. 1	上ノ国市街地遺跡 遺構検出状況・出土遺物
PL. 2	上之国花沢館跡 遺構検出状況・出土遺物
PL. 3	上ノ国市街地遺跡 遺構検出状況
PL. 4	上ノ国市街地遺跡 (1~9)・ 上之国花沢館跡 (10~15) 遺構検出状況
PL. 5	上之国花沢館跡 遺構検出状況
PL. 6	上之国花沢館跡 遺構検出状況
PL. 7	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (縄文・続縄文土器)
PL. 8	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (擦文土器・陶磁器)
PL. 9	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (陶磁器・かわらけ)
PL. 10	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (陶磁器・鉄製品・銅製品・骨角器・ 須恵器)
PL. 11	上之国花沢館跡 出土遺物 (陶磁器・鉄製品・銅銭・自然遺物・ 石製品)



第1図 遺跡位置図



第2図 山本吉春氏宅 調査区位置図

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）

I 調査の概要

1. 調査にいたる経緯

上ノ国市街地遺跡は、天ノ川河口左岸の標高約5mの海浜に立地し、南西には史跡上之國勝山館跡を擁する丘陵地帯が広がる。

過年度には、住宅の建替え等による発掘調査が行なわれ、縄文～明治時代に至る遺構・遺物等が確認されている。

特に平成11年に行われた、旧笹浪家住宅横の宮ノ沢右岸地点の発掘調査では、中世末～近世初頭の層からイクバスイや陶磁器などが出土し、勝山館跡だけでなく上ノ国市街地においても、アイヌと和人のあり方について注目される資料が発見されている。

今年度は、旧笹浪家住宅から国道沿いを東側約100mに位置する山本吉春氏宅の住宅建替えに伴う発掘調査を行なった。

2. 調査方法

グリッドは、4m方眼を調査区全体に設定し、東西方向をアルファベット、南北方向をアラビア数字で表記し、それらを組み合わせてB1、C2…と設定した。

遺物の取り上げは、I層（表土層）出土のものは、グリッドを4分割（2m×2mの小グリッドを設定）して取り上げた。II層以下のものについては、地点と標高値を記録し、層位ごとに取り上げた。

3. 調査経過

6月15日(水)

調査区の設定とI～II層の掘削を行なう。

6月16日(木)

1640年降下のK o - d（駒ヶ岳d）火山灰上面で遺構検出を行う。柱穴等が確認されたが、近現代の攪乱によりその詳細は捉えられなかった。

6月17日(月)

III層において15世紀中頃～17世紀初頭の陶磁器が出土する。

6月28日(火)

III b層上面において遺構検出を行なう。柱穴

等が多数確認された。

7月1日(金)

K o - d火山灰下で溝1を検出した。

7月11日(月)

930年代降下のB - T m（白頭山-苦小牧）火山灰上のIV a層から内耳土鍋が出土する。

7月13日(水)

B - T m火山灰下のV a層から続縄文土器（後北C₂・D式）が出土する。

7月15日(金)

VII層面（無遺物層）まで掘り下げ、全景写真を撮影して発掘調査を終了した。

4. 基本層序

本調査区で確認された基本的な層序は以下のとおりである。

I層：近現代に相当する堆積層である。

II層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年降灰のK o - d（駒ヶ岳d）火山灰の層を含む。

III層：中世～近世初頭に相当する堆積層で、2層に細分される。

III a層：黒褐色シルト層である。

III b層：明褐色他の粘土層である。

IV層：擦文時代に相当する堆積層で、2層に細分される。

IV a層：黒色の腐植土層で、B - T m上層に堆積する。

IV b層：B - T m火山灰層である。

V層：続縄文時代に相当する堆積層で、2層に細分される。

V a層：暗褐色の砂質土層である。

V b層：灰白色の粘土層である。

VI層：縄文時代後期～晩期に相当する堆積層で、2層に細分される。

VI a層：褐灰色の砂質土層で礫を多く含む。

VI b層：褐灰色の砂質土層である。

VII層：褐灰色の砂層で、この層から遺物は出土しなかった。

II 遺構確認調査

1. 検出遺構

本調査では、Ⅱ層及びⅢ層面において溝・柱穴等の遺構を検出したが、Ⅳ～Ⅵ層面では遺構を検出できなかった。

また、Ⅲ層までは住宅の基礎等による現代の攪乱を受けており、遺構の掘り込み面が確認できないものも多数存在した。

なお、土壇1～3・井戸は近現代の遺構のため、ここでの記述は割愛した。

溝1 (第3図、P L 3-11・12)

〔位置〕 B1・C1グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 東から西方向へ直線的に伸び、長さは残存値で400cm、幅約80cm、深さ約40cmを測る。溝1南側に約10cmの段が存在し、溝の造り替えを想定したが、平面プラン・土層堆積からそれを確認できなかった。

〔堆積土〕 黒褐色シルトの自然堆積を呈し、5層に分層される(SPA～SPA')。K o - d火山灰より下層に位置する。

〔新旧関係〕 切り合い関係からP29・30・41・78より古い。

〔出土遺物〕 青磁碗1点、白磁皿(D群)1点、瀬戸・美濃灰釉皿(大窯第1～2段階)1点、瀬戸・美濃播鉢(大窯第4段階)1点、染付碗?1点、漆椀1点が出土している。

灰・炭化物範囲 (第3図、P L 3-13)

〔位置〕 B4グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 長軸約100cm、短軸約70cm、厚さ3～5cmの不整楕円形を呈する。

〔堆積土〕 Ⅲb層直上に堆積し、灰や炭化物を含む。灰・炭化物除去後の地表面に被熱を受けた形跡がなく、別の場所から廃棄されたものと想定される。

〔新旧関係〕 切り合い関係からP52より古い。

〔出土遺物〕 青磁碗(龍泉窯系碗B2類)1点、白磁丸皿平高台(D群)6点、古瀬戸目付大皿(後Ⅳ古段階)1点が出土している。

柱列 (第6図)

柱穴の切り合い関係や配置から柱列1～5を想定した。

柱列1

〔柱列〕 P54・P14・P19とそれに直交するP49・P22・P40とP26・P21・P29を想定した。

〔柱間寸法〕 P54～P19は、柱間5.4尺、6.6尺を測る。P54～P40・P19～P29は、柱間6.4尺、6.4尺、5.8尺を測る。

〔新旧関係〕 切り合い関係からP21・P49が柱列2のP43・P8より古い。

柱列2

〔柱列〕 P1・P59・P17とそれに直交するP2・P8とP11・P18・P46・P43を想定した。

〔柱間寸法〕 P1～P17は、柱間6.3尺、6.3尺を測る。P1～P8は、柱間6.3尺、6.3尺を測る。P11～P43は、柱間6.3尺、6.3尺、6.3尺を測る。

〔新旧関係〕 切り合い関係からP43・P8が柱列1のP21・P49より新しい。

柱列3

〔柱列〕 P6・P13とそれに直交するP57・P28を想定した。

〔新旧関係〕 P57は、K o - d火山灰層を壊して構築されるため、K o - d火山灰降下後の柱穴である。

柱列4

〔柱列〕 P31・P27・P44を想定した。

〔柱間寸法〕 P31～P44は、柱間7.1尺、7.1尺を測る。

〔新旧関係〕 切り合い関係からP27が柱列5のP7より古い。

〔出土遺物〕 なし

柱列5

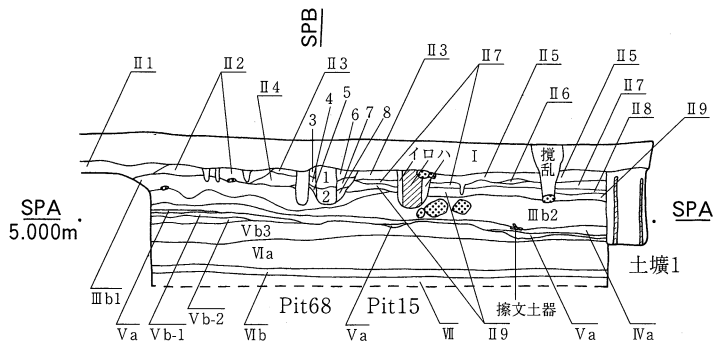
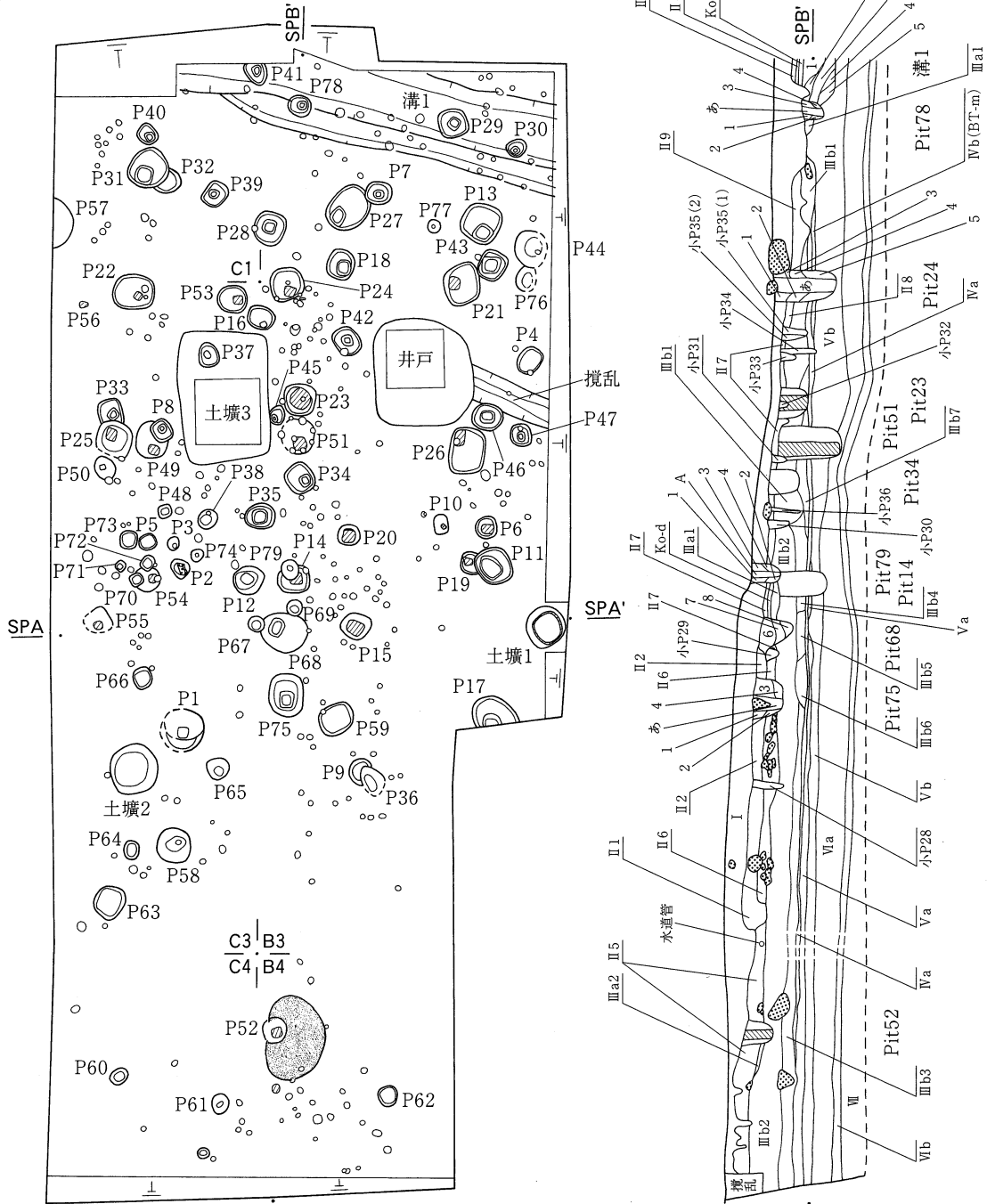
〔柱列〕 P61・P65・P38・P37・P39に直交するP62とP7を想定した。

〔柱間寸法〕 P61～P39は、柱間13.2尺、9.9尺、6.6尺、6.6尺、P61～P62は、柱間6.6尺を測る。P39～P7は、柱間6.6尺を測る。

〔新旧関係〕 切り合い関係からP7が柱列4のP27より新しい。また、P37が土壇3より新しい。



C1 | B1



- 石 (Stone)
- 木製品 (Wooden products)
- 灰・炭化物範囲 (Ash/Carbonized material range)



第3図 遺構配置図他

表1 東西北壁セクション (SPA~SPA')

Pit15	I	10YR3/3	暗褐色	玉砂利・礫・ロームブロック少量	ハード	炭少量
	II1	10YR2/3	黒褐色	玉砂利や多量、焼土粒少量	ややハード	
	II2	10YR2/2	黒褐色	Ko-d粒少量、焼土粒少量	ややソフト	炭少量
	II3	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	
	II4	10YR2/2	黒褐色		シルト ソフト	
	II5	10YR2/2	黒褐色	赤褐色粘土粒	シルト ややハード	炭粒中量
	II6	10YR2/2	黒褐色	赤褐色粘土粒 径5~10cm 大角礫中量	シルト ややハード	炭粒中量
	II7	10YR2/2	黒褐色	Ko-dブロック(5cm大)×1	シルト ややハード	
	II8	10YR2/2	黒褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト	
	II9	10YR2/3	黒褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト	
	IIIb1	2.5YR5/6	明赤褐色		粘土 ややハード	
	IIIb2	5YR5/6	明赤褐色	径1~3cm大円礫	粘土 ややハード	
	IVa	5YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	木質多量
	Va	5YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	砂質土 ややソフト	木質少量

表2 南北西壁セクション (SPB~SPB')

Pit68	1	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	炭化ブロック少量
	2	10YR3/4	暗褐色	Ko-dブロック微量	シルト ややソフト	
	3	10YR2/3	黒褐色	焼土粒少量、火山灰多量	シルト ややソフト	炭少量
	4	10YR2/3	黒褐色	焼土粒・砂利・焼土粒少量	シルト ややハード	炭少量
	5	10YR3/2	黒褐色	Ko-d多量	シルト	炭少量
	6	10YR		全面Ko-d		
	7	10YR		全面Ko-d		
	8	10YR2/2	黒褐色	砂利少量 焼土粒・砂多量		

Pit24	II8	10YR2/2	黒褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト	
	II9	10YR2/3	黒褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト	
	IIIa1	10YR3/1	黒褐色		シルト ややソフト	
	IIIa2	10YR2/2	黒褐色	ローム粒多量	シルト ややハード	
	IIIb1	2.5YR5/6	明赤褐色		粘土 ややハード	
	IIIb2	5YR5/6	明赤褐色	径1~3cm大円礫	粘土 ややハード	
	IIIb3	5YR5/6	明赤褐色	礫少量	粘土 ややハード	
	IIIb4	2.5YR5/6	明赤褐色		粘土 ややソフト	
	IIIb5	2.5YR5/6	明赤褐色		粘土 ややハード	
	IIIb6	2.5YR4/6	赤褐色	粗砂少量	粘土 ややハード	炭粒微量
	IIIb7	10YR4/1	灰褐色		粘土 ややソフト	
	IIIb8	10YR5/6	黄褐色	粗砂中量	粘土 ややハード	
	IVa	5YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	木質多量
	IVb	2.5YR7/6	明黄褐色	B-Tm主体	シルト	
	Va	5YR4/3	にぶい黄褐色		砂質土 ややソフト	木質少量
Pit75	Vb3	10YR7/1	灰白色		粘土 ややソフト	
	VIa	10YR6/1	褐色	礫少量	砂質土 ややソフト	
	VIb	10YR4/1	褐色		砂質土 ややソフト	炭粒少量
	VII	10YR4/1	褐色		砂 ややソフト	
Pit77	あ	10YR2/3	褐色		シルト ややソフト	炭粒少量
	1	10YR3/2	褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	2	10YR3/2	褐色	褐色粘土多量	ややハード	炭粒微量
	3	10YR3/2	褐色	明褐色粒少量	ややハード	
Pit78	4	10YR3/2	褐色	褐色粘土少量	ややハード	
	あ	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	炭粒中量
	1	10YR3/3	暗褐色	径1~3cm大円礫少量	シルト ややハード	
	2	10YR2/3	黒褐色	径1~3cm大円礫少量	シルト ややハード	
Pit79	3	10YR3/3	暗褐色	径1~3cm大円礫少量	シルト ややソフト	
	4	10YR2/3	黒褐色	径1~3cm大円礫少量	シルト ややハード	
	あ	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	
	1	10YR2/2	黒褐色		シルト ソフト	
Pit30	2	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	3	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	4	10YR2/3	黒褐色		シルト ソフト	
	A	10YR3/3	暗褐色	径2cm大円礫 Ko-dブロック(5cm)×1	シルト ハード	
Pit31	1	10YR3/3	暗褐色		シルト ややハード	
	2	10YR2/3	黒褐色	Ko-dブロック(5cm)×1	シルト ややハード	
	3	10YR3/3	暗褐色	径2cm大円礫微量	シルト ややハード	
	4	10YR2/3	黒褐色		シルト ややハード	
Pit32	小Pit28	10YR3/2	黒褐色		シルト ややハード	炭粒少量
	小Pit29	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
	小Pit30	1	10YR3/2	黒褐色	ローム粒少量	シルト ややソフト
	小Pit31	10YR3/2	黒褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
Pit33	小Pit32	10YR3/2	黒褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	小Pit33	10YR3/2	黒褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	小Pit34	10YR3/2	黒褐色	ロームブロック少量	シルト ややソフト	炭粒少量
	小Pit35	1	10YR3/2	黒褐色	明褐色粒少量	シルト ややソフト
Pit36	2	10YR3/2	黒褐色	明褐色粒少量	シルト ややハード	
	小Pit36	10YR2/2	黒褐色		シルト ややソフト	炭粒少量
	溝1	1	10YR2/1	黒色	明褐色土粒少量	シルト ややソフト
	2	10YR2/1	黒色		シルト ややソフト	
Pit37	3	10YR2/1	黒色		シルト ソフト	
	4	10YR1.7/1	黒色		シルト ややソフト	
	5	10YR1.7/1	黒色		シルト ソフト	

2. 出土遺物 (7~12図、P L 1・7~10)

本調査では、破片数で3700点の遺物が出土している。実測・写真等の報告書掲載遺物に関しては、観察表を付した(表6)。

a. 土器 (7~9図、P L 7~8-5)

土器は、破片数で縄文土器612点、続縄文土器178点、擦文土器98点、不明1点の計889点出土している。

土器の分類は、原歌遺跡S地点の分類を参考にして行なった(上ノ国町教育委員会1998)。

IV 群：縄文時代後期に相当する土器群。

主にVI b層から出土し、本調査では主体となる土器群でa~dの4類に細分される。

IV群 a類：縄文時代後期初頭の土器群。

煉瓦台、天祐寺式などの余市式系の土器群を主体とする。

IV群 b類：縄文時代後期前葉の土器群。

鳥崎式、大津式、十腰内I式、入江式系を主体とする。本調査では、入江式に相当する土器が出土している。

IV群 c類：縄文時代後期中葉~後葉の土器群。

手稲式、ホッケマ式を主体とする。また、これらに先行する船泊上層式、ウサクマイC式なども含む。本調査では、ウサクマイC式、手稲式、ホッケマ式に相当する土器が出土している。

IV群 d類：縄文時代後期後葉~末葉の土器群。

堂林式、三ツ谷式、御殿山式を主体とする。本調査では、堂林式に相当する土器が出土している。

V 群：縄文時代晩期の土器群。

主にVI a層から出土し、本調査では、大洞B~A式相当のものが出土している。また、外面胴部に条痕を施す土器なども見られる。

VI 群：続縄文時代の土器群。

本調査では、主にV層から出土しているが、恵山式はV b層、後北式はV a層から出土している。

VI群 a類：恵山式に相当する土器群。

本調査では、宇鉄Ⅱ式～田舎館Ⅰ群に併行するものと思われる。器種は台付鉢や深鉢が見られる。

VI群 b類：後北式に相当する土器群。

本調査では、後北C₂・D式の深鉢が出土している。

VII 群：擦文時代の土器群。

本調査では、B-T m火山灰上層のIV a層から出土し、器種は甕・内耳土鍋が見られる。

b. 陶磁器 (10～12図-4、P L 8-6～10-12)

陶磁器は、破片数で2650点出土している。本項では紙幅の関係から唐津を除く肥前系陶磁器については、報告を行わなかった。

青磁 (10図-1～5・21・22、P L 8-6～12・32・33)

碗・皿・盤が出土している。碗は龍泉窯系碗B 2類、D 2類、B 4類、E類が出土している。碗D 2類の口縁部は、端反りのタイプのみで、玉縁状のものは見られない。皿は口縁部が玉縁状の端反皿や劃花文を施さない無文の稜花皿が出土している。盤は、内面胴部にソギが見られる。

白磁 (10図-25、P L 9-1)

白磁皿D群の丸皿で占められる。高台は平高台のものが見られ、釉調は陶器質を呈する。

染付 (10図-6・7・9・24、P L 8-13・14・19・35・36)

碗は蓮子碗C群、皿は多い順からE群、C群、B 1群が出土している。碗・皿ともに漳州窯系と思われる粗製の一群が見られる。

瀬戸・美濃 (10図-10～15・27・28・32～34、11-11、12-2、P L 8-20～25、9-3・4・9～11、10-2・10)

鉄釉・錆釉・灰釉・飴釉の釉調の製品が出土している。

鉄釉は、碗のみの出土で大窯第2後～4段階相当や連房期と推されるものが見られる。錆釉は、大窯第4段階相当の播鉢が見られる。

灰釉は、連房期に相当する碗や古瀬戸卸目付大皿、大窯第1～2段階相当の端反皿や大窯第4段階相当の内禿皿などが出土している。飴釉は、口縁部が屈曲する皿で外面胴部以下露胎を呈する。

珠洲 (11図-15、P L 10-6)

播鉢で構成され、胴部～底部破片の出土であるが、V～VI期に相当するものと推測される。

越前 (11図-16、12-1、P L 10-7～9)

播鉢で構成され、V群の製品が多く出土しIV群に相当するものも見られる。

志野 (10図-26・39・30、P L 9-2・5～7)

皿で構成され、丸皿・菊皿・鉄絵皿などが出土している。

唐津 (10図-17・23、11-1～6・10、12-3・4、P L 8-27・28・34、9-12～17、10-1・4・11・12)

碗・皿・盤などが出土している。碗は、目積みを行わない製品で占められる。皿は、多い順に砂目積みを行うもの、胎土目積みを行うもの、目積みを行わないものが出土する。

c. 鉄製品 (P L 10-21)

釘・鋸・刀子・鍋などが出土している。鍋は、吊耳の製品で構成される。

d. 銅製品 (12図-5～12、P L 10-13～18・20・22～27)

煙管・筭・銭などが出土している。銭は、明道元寶、寛永通寶(1・2期)が出土している。

e. 石製品

茶臼・砥石が出土している。砥石は、仕上げ砥・中砥で構成される。

f. その他

石器、須恵器、かわらけ、骨角器、漆器などが出土している。

表3 山本宅出土遺物集計表(土器)

種類	分類	破片数
縄文土器	IV群a類	1
	IV群b類	5
	IV群c類	436
	IV群d類	6
	IV群	55
	V群	109
小計	計	612 [68.9%]
続縄文土器	VI群a類	97
	VI群b類	68
	VI群	13
小計	計	178 [20.0%]
擦文土器	VII群	98 [11.0%]
不明		1 [0.1%]
総計	計	889 [100%]

表4 山本宅出土遺物集計表(その他)

種類	器種	破片数	
鉄製品	鋸	2	
	釘	29	
	刀子	6	
	鍋	2	
	ヤス?	1	
	鏝	1	
	不明	9	
	小計	計	50
	銅製品	煙管	13
		釘	1
漆器	筭	1	
	銭	8	
不明	不明	5	
	小計	計	28
	種類	器種	破片数
石製品	砥石	8	
	茶臼	1	
小計	計	9	
土製品	陶鉢	6	
	玉	1	
	不明	1	
小計	計	8	
木製品	柱	7	
	不明	2	
小計	計	9	
漆器	碗	13	
	塗膜片	4	
小計	計	17	
種類	器種	破片数	
石器	スクレイパー	2	
	不明	16	
小計	計	18	
自然遺物	貝	1	
	不明骨	8	
	石	2	
小計	計	11	
骨角器	中柄	1	
不明溶解物		2	
須恵器	甕	1	
現代ガラス	不明	7	
総計	計	161	

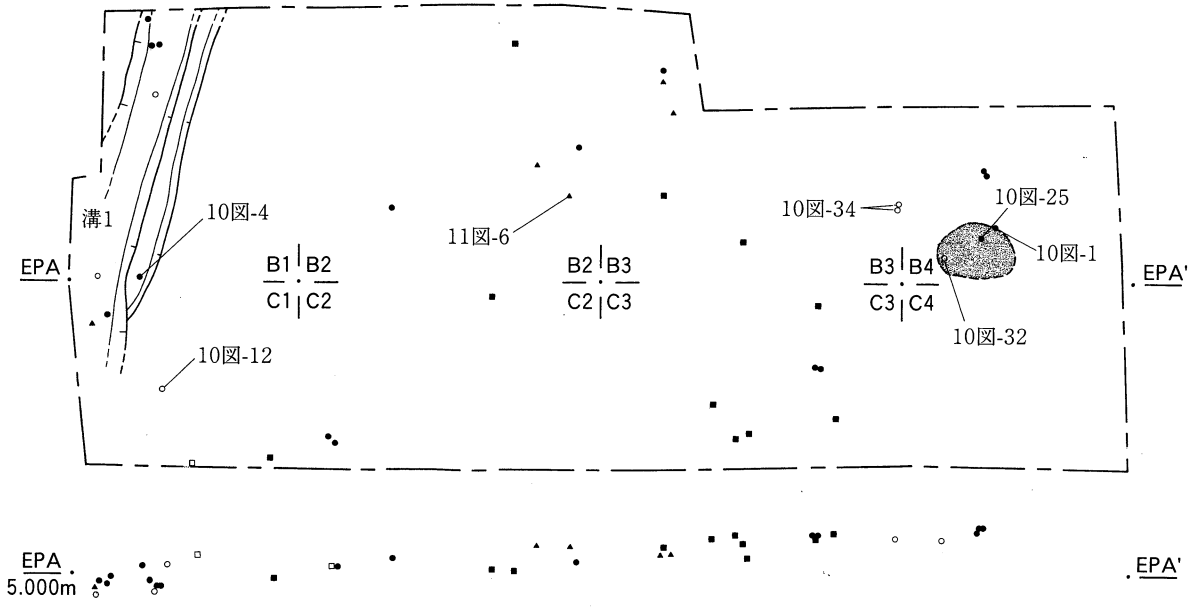
表5 山本宅出土遺物集計表(陶磁器・かわらけ)

種類	器種	分類	破片数	種類	器種	分類	破片数	種類	器種	分類	破片数	
青磁	碗	龍泉窯系B2類	9	黄釉	瓶		2	越前	播鉢	IV群	8	
		龍泉窯系B4類	1	瀬戸・美濃	碗	大窯2後	3			V群	26	
		龍泉窯系D2類	11	鉄釉		大窯4	5	小計	34			
		龍泉窯系E類	9		不明	1	備前	播鉢	2			
		龍泉窯系不明	30		瓶	連房	4	唐津	碗	I期	9	
	皿	龍泉窯系D類	1		不明	2			II期	10		
	盤	後花皿	1	瀬戸・美濃	丸碗	連房	4		不明	22		
	小計		59	灰釉	卸目付大皿	後IV古	13		小計	41		
白磁	皿	D群	15		端反皿	大窯1・2	4		皿	I期	9	
染付	碗	C群	1		内禿皿	大窯4	11			II期	143	
		濠洲窯系	18	瀬戸・美濃	香炉	不明	5			不明	69	
		不明	1	錆釉		大窯4	1		小計	221		
					瀬戸・美濃	播鉢	不明	7		播鉢		47
						皿	連房	3		壺・甕他		114
		皿	B1群	1		小計	63		不明		5	
			C群	3	志野	皿	不明	15		小計	428	
			E群	34		不明	2	肥前系陶磁器		1825		
			濠洲窯系	2		小計	17	不明陶磁器		132		
			不明	3	珠洲	播鉢	V~VI期	7	中世土器	かわらけ	1	
	坏		2					総計	2650			
	小計		65									

表6 山本宅 出土遺物観察表

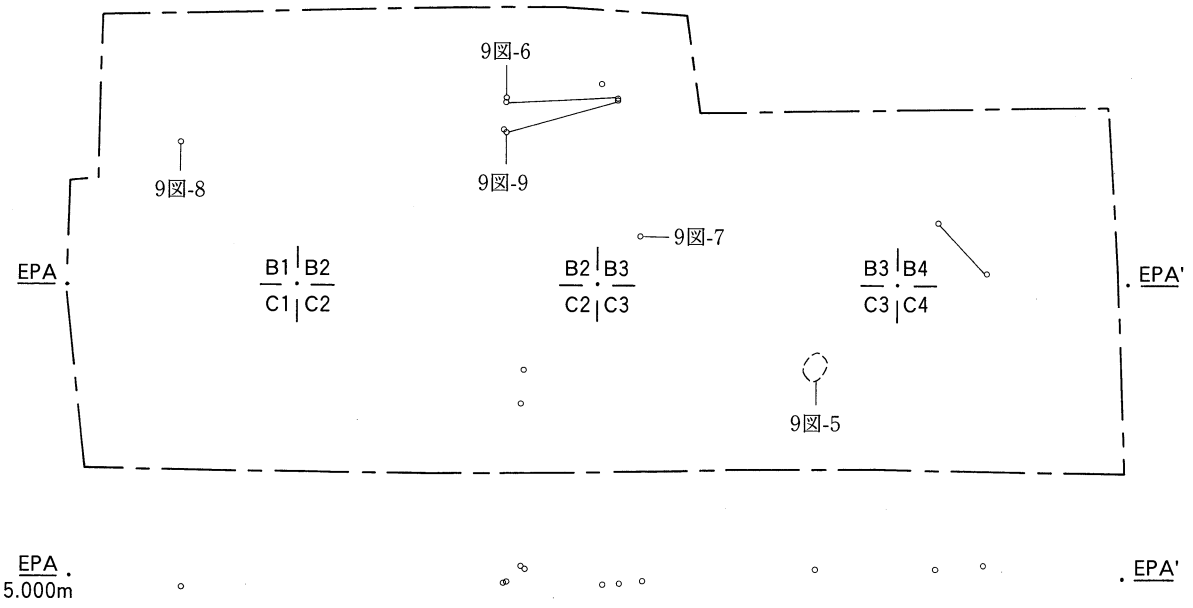
図版No.	PLNo.	グリット	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
7図-1	PL7-1	B1・B2	井戸	VIb	縄文土器	深鉢	IV群c類 口径28.6×底径21.1×器高6.8cm 外面-口縁部・胴部LR斜行縄文横回転 内面-ミガキ	接合No314
7図-2	PL7-2	C2		VIb	縄文土器	深鉢	IV群c類 口径23.0cm 波状口縁 外面-口縁部LR斜行縄文横回転・穿孔、胴部LR斜行縄文横回転 内面-ミガキ	接合No269
7図-3	PL7-3	C2		VIb	縄文土器	深鉢	IV群c類 口径17.8cm 外面-口縁部・胴部RL斜行縄文縦回転 内面-ミガキ	接合No295
7図-4	PL7-4	C2		VIb	縄文土器	深鉢	IV群c類 外面-頸部沈線、胴部LR斜行縄文横回転 内面-ミガキ	接合No321
7図-5	PL7-5	C4		VIb	縄文土器	深鉢	IV群c類 口径30.8cm 外面-口縁部LR斜行縄文縦回転・穿孔、胴部LR斜行縄文縦回転 内面-ミガキ	接合No271
7図-6	PL7-6	C2		VIb	縄文土器	深鉢	IV群c類 口径47.0cm 外面-頸部沈線、胴部LR斜行縄文 内面-ミガキ	接合No315
8図-1	PL7-7	B2	井戸	覆土	縄文土器	深鉢	IV群b類 外面-胴部「J」字状、入組的な文様を描く。内面-胴部ミガキ	B2井戸-P5
8図-2	PL7-8			排土	縄文土器	深鉢	IV群b類 外面胴部一櫛状工具による施文。内面-胴部ミガキ	排土-P21
8図-3	PL7-9	C3		VIb	縄文土器	深鉢	IV群a類 外面-口縁部貼付・沈線	C3VI-P7
8図-4	PL7-11	C2		VIb	縄文土器	深鉢	IV群c類 山形口縁 外面-口縁部沈線、胴部刻目・LR斜行縄文横回転 内面-ミガキ	接合No282
8図-5	PL7-12	C1		VIb	縄文土器	深鉢	IV群c類 山形口縁 外面-頸部沈線、胴部RL斜行縄文 内面-ミガキ	接合No267
8図-6	PL7-13	C1		VIb	縄文土器	深鉢	IV群c類 口縁部横向き団扇状突起 外面-口縁部沈線	接合No291
8図-7	PL7-10	B3		IIIb	縄文土器	鉢	V群 外面-口縁部平行沈線、頸部貼付、胴部平行沈線・工字文・LR斜行縄文横回転	B3III-P1
8図-8	PL7-14			排土	縄文土器	壺?	V群 外面-沈線・刻目	排土-P1
8図-9	PL1-8	B4		VIb	縄文土器	浅鉢	IV群 底径4.0cm 内面-底部橙色付着物	接合No298
8図-10	PL7-15	C2		VIb	縄文土器	鉢	IV群c類 口径22.0cm 外面-沈線・LR斜行縄文横回転 内面-ミガキ	接合No281
8図-11	PL7-16	B4		VIa	縄文土器	鉢	V群 口径17.5cm 口縁部B形突起	接合No250
8図-12	PL7-17	B4		VIa	縄文土器	深鉢	V群 外面-胴部条痕	接合No254
8図-13	PL7-19	C2		VIb	縄文土器	鉢	IV群c類 口径28.0cm 外面-口縁部刻目・沈線、胴部LR斜行縄文横回転主体	接合No285
8図-14	PL7-18	C3		VIa	縄文土器	浅鉢	V群 口径12.4cm 口縁部刻目	接合No324
9図-1	PL7-20	B2		Vb	縄文土器	台付鉢	VI群a類 恵山式 外面-胴部刻目・沈線・縦走縄文 字鉄II~田舎館I群に併行か	接合No303
9図-2	PL7-22	B2		Vb	縄文土器	台付鉢	VI群a類 恵山式 底径12.2cm 外面-沈線・刻目 字鉄II~田舎館I群に併行か	接合No248
9図-3	PL7-21	B1・B4		Vb	縄文土器	深鉢	VI群a類 恵山式? 外面-胴部沈線・縦走縄文	接合No253
9図-4	PL7-23	B3		Va	縄文土器	深鉢	VI群b類 後北C2・D式	接合No266
9図-5	PL8-1	C3		IVa	縄文土器	甕	VII群 器高(18.5)×底径6.5cm 外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面-胴部炭化物付着	接合No247
9図-6	PL8-2	B2・B3		IVa	縄文土器	甕	VII群 口径10.8×底径11.1×器高6.2cm 外面-口縁部ヨコナデ・沈線、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面-口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ	接合No246
9図-7	PL8-3	B3		IVa	縄文土器	甕	VII群 口径14.0cm 外面-口縁部沈線3条、胴部ヘラケズリ 内面-口縁部ヨコナデ、胴部炭化物付着	B3IV-P1
9図-8	PL8-4	B1		IVa	縄文土器	甕	VII群 口径12.4cm 外面-口縁部沈線、胴部ヘラケズリ 内面-口縁部ヨコナデ	B1IV-P1
9図-9	PL8-5	B2・B3		排土	縄文土器	鍋	VII群 内耳土鍋 口径16.4cm 外面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ 内面-口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ	接合No243
10図-1	PL8-6	B4		IIIb	青磁	碗	龍泉窯系B2類 口径13.0 外面-胴部 外面-口縁部圏線2条、胴部篋描蓮弁文	B4III-E8
10図-2	PL8-7	B2・C3		IIIb	青磁	碗	龍泉窯系B2類 口径11.8 外面-口縁部圏線、胴部篋描蓮弁文	接合No202
10図-3	PL8-8	C3		I	青磁	碗	龍泉窯系D2類 端反碗	C3I-E85
10図-4	PL8-9	B1・C2		IIIa	青磁	碗	龍泉窯系D2類 端反碗 外面-胴部(ラマ式?)蓮弁文 内面-胴部草花文	接合No65
10図-5	PL8-10	B1		II	青磁	碗	龍泉窯系B2類 底径6.8cm 外面-胴部篋書蓮弁文、高台裏露胎 内面-見込磨耗	B1II-E61
	PL8-11	B4		II	青磁	碗	龍泉窯系D2類 端反碗	B4II-E14
	PL8-12	B2	井戸	覆土	青磁	碗	龍泉窯系B2類 外面-胴部蓮弁、高台裏露胎 内面-見込圏線・印花?	B2井戸-E4
10図-6	PL8-13	B1		I	染付	碗	濠洲窯系 底径4.0 内面-見込草花文	B1I-E15
10図-7	PL8-14	B1		II	染付	碗	C群 蓮子碗 底径4.8cm 外面-胴部アラバスク、腰部圏線2条、内面-見込蓮花	B1II-E23
10図-8	PL8-15	C1		II	肥前系染付	碗	II-2期 口径10.3cm 外面-口縁部圏線2条、胴部草花文	C1II-E12
	PL8-16	C2		II	肥前系染付	碗	II-2期 外面-口縁部四方棒、胴部花唐草、腰部圏線、内面-口縁部圏線	C2II-E13
	PL8-17	C1		II	肥前系染付	碗	II-2期 外面-口縁部圏線2条、胴部牡丹唐草	C1II-E10
	PL8-18	B2・C2		IIIb	肥前系染付	碗	II-2期 外面-口縁部圏線2条、胴部花文、腰部圏線、内面-口縁部・見込圏線	接合No78
10図-9	PL8-19	B1	溝1	覆土	染付?	碗	外面-胴部「禄」 内面-見込圏線2条	B1溝1覆土-E6
10図-10	PL8-20	C2		I	鉄釉	碗	天目茶碗 大窯2後 口径12.0×器高(3.7)cm 高台周辺薄い錆釉	接合No210

図版No.	PLNo.	グリット	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
10図-11	PL8-21	B1		II	鉄釉	碗	天目茶碗 大窯4 口径11.8cm	B1 II-E57
10図-12	PL8-22	C1		IIIa	鉄釉	碗	天目茶碗 大窯4 口径11.8×器高(3.6)cm 高台周辺薄い錆釉	接合No45
10図-13	PL8-23	B2		II	鉄釉	碗	天目茶碗 大窯4 口径8.8×器高(3.6)cm	B2 II-E17
10図-14	PL8-24			排土	鉛釉	皿	端反皿 口径10.0×器高(2.6)cm 外面-胴部以下露胎	排土-E47
10図-15	PL8-25	B1		II	灰釉	碗	連房期 口径13.3×器高(3.3)cm	B1 II-E2
10図-16	PL8-26	B2		I	肥前系陶器	香炉	口径12.0×底径6.3×器高8.3cm 外面-口縁部・胴部圏線 腰部以下露胎 内面-露胎 胎土-茶褐色	接合No17
	PL8-27	B2		II	唐津	碗	II期 外面-胴部以下露胎 内面-灰釉	接合No27
10図-17	PL8-28	B1		I	唐津	碗	I期 口径10.2×底径5.0×器高6.2cm 外面-高台裏露胎・スス付着 2次被熱	接合No235
10図-18	PL8-29	B3		II	肥前系陶器	碗	京焼風陶器 口径11.0×底径5.1×器高7.3cm	接合No57
10図-19	PL8-30	B1・B2		I	肥前系青磁	碗	口径11.2×底径5.0×器高7.0cm 外面-高台裏露胎	接合No67
10図-20	PL8-31	B3・C3		II	肥前系青磁	碗	口径21.0cm	接合No178
10図-21	PL8-32			攪乱	青磁	皿	稜花皿 2次被熱	攪乱-E3
10図-22	PL8-33	B3		II	青磁	盤	内面-胴部線描連弁	接合No205
10図-23	PL8-34	B1		I	唐津	盤	内面-胴部ノギ	B1 I-E78
10図-24	PL8-35	C1		I	染付	皿	端反皿 B1群 底径8.7×器高(1.95)cm 外面-胴部花唐草・腰部圏線3条・内面-見込圏線2条・松?	C1 I-E24
	PL8-36	B3・C3・C4		I	染付	皿	E群 外面-口縁部圏線2条・胴部雲芝雲・雑宝?・腰部圏線2条・内面-口縁部圏線・胴部・見込菊牡丹	接合No6
	PL8-37	B3・B4・C3		II	肥前系染付	皿	大皿 II-2期 口径20.9×器高4.3×底径7.0cm 外面-腰部略連弁文・内面-見込圏線2条・略連弁文・草花文	接合No1
10図-25	PL9-1	B4		IIIb	白磁	皿	丸皿 D群 平高台 口径9.0×底径3.2×器高2.6cm	接合No46
10図-26	PL9-2	C3		I	志野	皿	丸皿 口径11.0×底径6.0×器高2.1cm	接合No137
10図-27	PL9-3	B2		II	灰釉	皿	内禿皿? 大窯4 口径10.6×器高(1.7)cm	B2 II-177
10図-28	PL9-4	B2		II	灰釉	皿	内禿皿 大窯4 口径10.0×底径5.3×器高(1.9)cm 内面-見込露胎	接合No61
10図-29	PL9-5	B1		I	志野	皿	丸皿 口径11.7×底径6.8×器高2.4cm	接合No72
10図-30	PL9-6	B3		I	志野	皿	鉄絵皿 口径12.9×器高(2.15)cm 内面-口縁部圏線・見込圏線2条	B3 I-E338
	PL9-7	B1		II	志野	皿	鉄絵皿	B1 II-E67
10図-31	PL9-8	B1		II	土師器	皿	かわらけ てづくね 口径12.0×底径6.0×器高1.95cm	B1 II-E1
10図-32	PL9-9	B4・C4		IIIb	灰釉	皿	卸目付大皿 古瀬戸後IV古段階 口径34.0×底径16.0×器高8.2cm	接合No23
10図-33	PL9-10	B3		II	灰釉	皿	卸目付大皿? 古瀬戸後IV古段階	B3 II-E275
10図-34	PL9-11	B3・B4		IIIb	灰釉	皿	卸目付大皿? 古瀬戸後IV古段階	接合No22
11図-1	PL9-12	B3		II	唐津	皿	I期 底径4.6 外面-胴部以下露胎	B3 II-E259
11図-2	PL9-13	C2		II	唐津	皿	I期 口径11.8×底径4.0×器高3.4cm 外面-腰部以下露胎・高台胎土目付着 内面-見込胎土目	接合No14
11図-3	PL9-14	C3		II	唐津	皿	I期 色調-内外面オリープ色	C3 II-E27
11図-4	PL9-15	B1・B2		II	唐津	皿	II期 口径13.4×底径4.4×器高3.7~4.1cm 外面-腰部以下露胎 内面-見込砂目積み	接合No16
	PL9-16	B1・C1・C2		II	唐津	皿	II期 外面-胴部以下露胎 内面-見込砂目積み 2次被熱	接合No24
11図-5	PL9-17	B2・C2	小	II	唐津	皿	II期 口径24.0×底径8.4×器高7.1cm 内面-見込砂目積み	接合No28
			Pit27					
11図-6	PL9-18	B2・B3・C2・C3		IIIa	肥前系陶器	皿	大皿 III期 外面-胴部以下露胎 内面-白化粧土による刷毛目文様・鉄釉・銅緑釉	接合No130
11図-7	PL9-19	B2		II	肥前系青磁	皿	17世紀中頃 口径24.0×器高5.4cm 外面-高台獣足 内面-見込陰刻草花文	接合No66
11図-8	PL9-20	B2・B3・C3		II	肥前系陶器	皿	III期 底径6.8cm 外面-透明釉・高台裏露胎 内面-銅緑釉・見込蛇の目刺し	接合No71
11図-9	PL9-21	B3		II	肥前系青磁	皿	口径9.4×底径4.9×器高1.9cm 釉薬-半身掛分け 内面-見込松?・葉状の裏文様	接合No120
11図-10	PL10-1	B2		II	唐津	片口	I期 口径20.4cm	接合No29
11図-11	PL10-2	B2		II	灰釉	香炉	口径11.0×底径9.0×器高(5.3)cm 外面-腰部以下露胎 2次被熱	接合No31
11図-12	PL10-3	C1		II	黄釉	瓶	産地不明 内面-胴部同心円状の吹き目 色調-胎土灰白色	接合No117
11図-13	PL10-4	C1		III	肥前系陶器	皿	内外面-自然釉 色調-胎土灰色	C1 III-E43
11図-14	PL10-5	C3		II	須恵器	甕	外面-頸部~胴部吹き目 胎土-暗赤褐色 五所川原産	C3 II-E116
11図-15	PL10-6	B4		II	珠洲	播鉢	内面-見込卸目	B4 II-E8
11図-16	PL10-7	B3・C3		II	越前	播鉢	IV群 口径30.0cm 卸目10条	接合No119
	PL10-8	C3		I	越前	播鉢	IV群b 卸目8条	C3 I-E1
12図-1	PL10-9	A2・C3		IIIa	越前	播鉢	V群 口径29.8×底径12.6×器高10.8cm	接合No114
12図-2	PL10-10	B2	Pit11	掘方	錆釉	播鉢	口径30.0cm 反時計回りに卸目9条 色調-内外面赤褐色・胎土灰白色	B2P11掘方-E1
12図-3	PL10-11	C1	Pit57	柱痕	唐津	播鉢	II期 口径30.0cm 内・外面-口縁部鉄釉	接合No110
12図-4	PL10-12	B2・B3・C3		IIIb	唐津	播鉢	II期 口径29.0cm 内・外面-口縁部鉄釉 卸目14条	接合No169
12図-5	PL10-13	B2		II	銅製品	煙管	雁首 長さ(8.2)×幅0.8×厚さ1.0cm 重量10.0g 12図-7と同一個体	B2 II-Cu4
12図-6	PL10-14	C3		I	銅製品	煙管	雁首 長さ(8.2)×幅0.9×厚さ0.8cm 重量5.5g	C3 I-Cu1
12図-7	PL10-15	C3		I	銅製品	煙管	吸口 長さ(7.7)×幅0.5×厚さ0.5cm 重量3.1g 12図-5と同一個体	C3 I-Cu2
	PL10-16	C1		II	銅製品	煙管	長さ(5.6)×直径0.5cm 重量2.5g	C1 II-Cu1
	PL10-17	B2		II	銅製品	煙管	長さ(4.7)×幅0.6×厚さ0.6cm 重量1.2g	B2 II-Cu3
	PL10-18	B1		II	銅製品	煙管	長さ(5.0)×直径1.1cm 重量3.7g	B1 II-Cu1
	PL10-19	C3		II	骨角器	中柄?	長さ(3.5)×幅0.8×厚さ0.7cm 重量1.6g	C3 II-N1
12図-8	PL10-20	B1		IIIa	銅製品	斧	長さ9.3×幅0.9×厚さ0.1cm 重量4.1g	B1 III-Cu1
	PL10-21	B2		II	鉄製品	刀子	長さ(10.7)×幅2.0×厚さ0.9cm 重量15.1g	B2 II-M7
12図-9	PL10-22	B2	攪乱		銅製品	銭	明治元寶(篆書) 外径2.50×内径2.09×厚さ0.18cm 重量2.6g	B2攪乱-Z1
12図-10	PL10-23	B2		II	銅製品	銭	寛永通寶 古寛永1期 外径2.46×内径1.96×厚さ0.18cm 重量3.0g	B2 II-Z1
12図-11	PL10-24	C3		I	銅製品	銭	寛永通寶 古寛永1期 外径2.45×内径1.88×厚さ0.19cm 重量2.4g	C3 I-Z1
	PL10-25	C2		I	銅製品	銭	寛永通寶 古寛永1期 外径2.56×内径1.91×厚さ0.22cm 重量3.4g	C2 I-Z1
	PL10-26	B2		II	銅製品	銭	寛永通寶 古寛永1期 外径2.50×内径1.98×厚さ0.20cm 重量3.0g	B2 II-Z2
12図-12	PL10-27	C2		II	銅製品	銭	寛永通寶(背文) 新寛永2期 外径2.61×内径2.06×厚さ0.20cm 重量2.6g	C2 II-Z1



III層 出土遺物分布図

- 青磁・白磁・染付
- 瀬戸・美濃
- 越前
- ▲ 唐津
- 肥前系陶磁器
- 灰・炭化物範囲

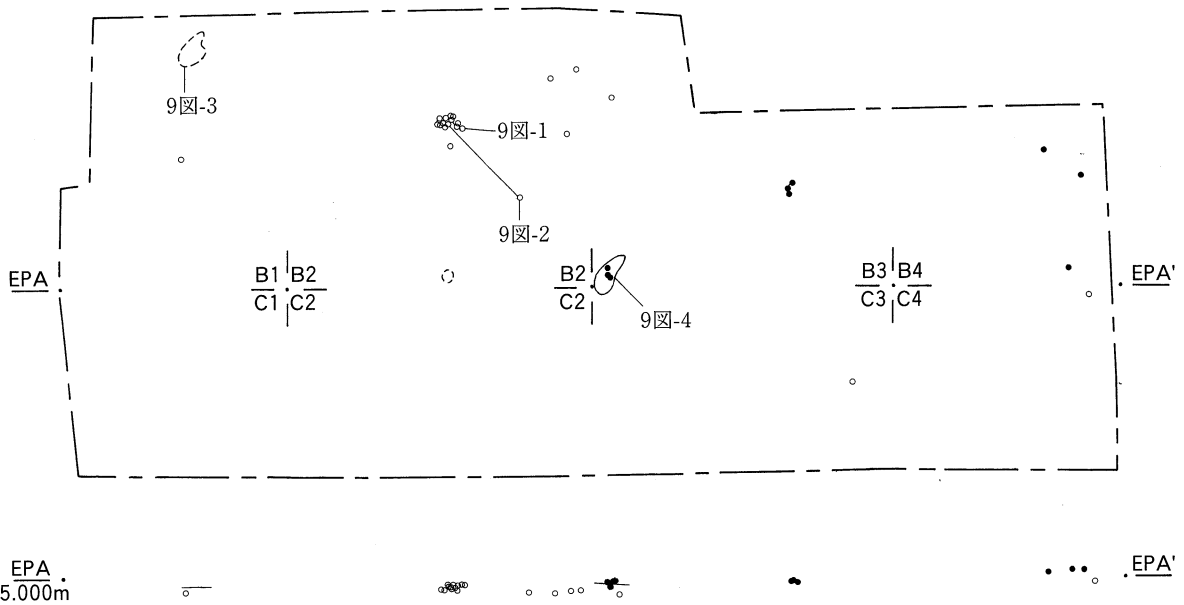
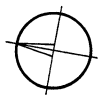


IV層 (IVa層) 出土遺物分布図

- 土器
- 土器一括範囲

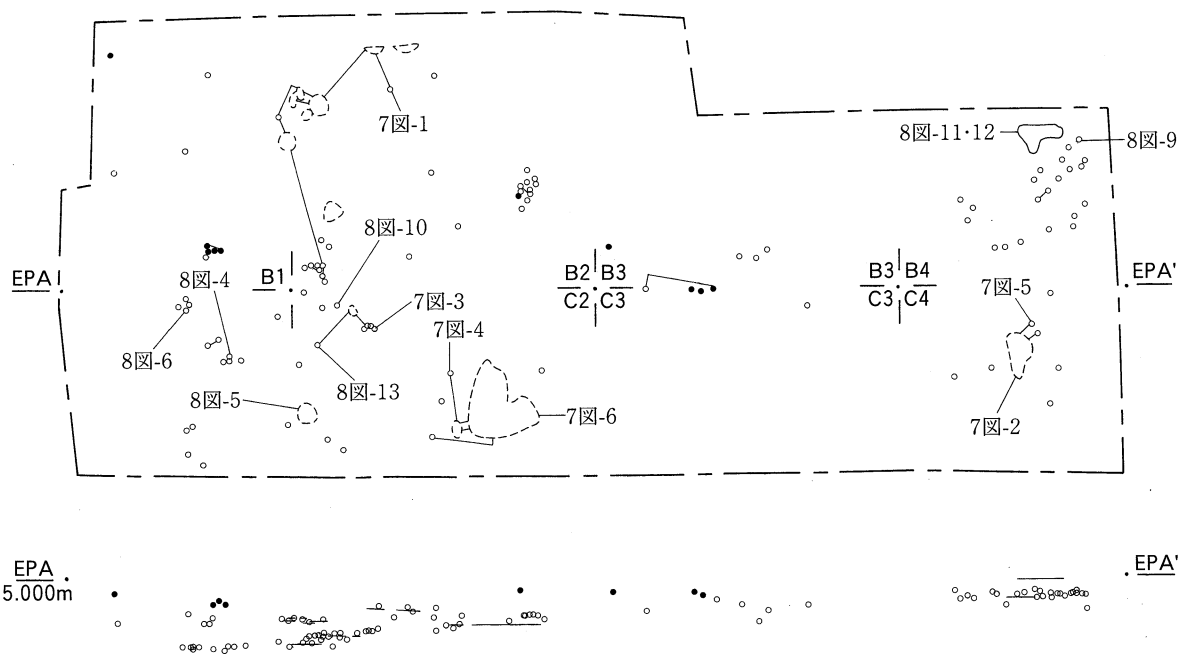


第4図 出土遺物分布図1



- 土器 (Va層) —— 土器一括範圍 (Va層)
- 土器 (Vb層) - - - 土器一括範圍 (Vb層)

V層 出土遺物分布圖

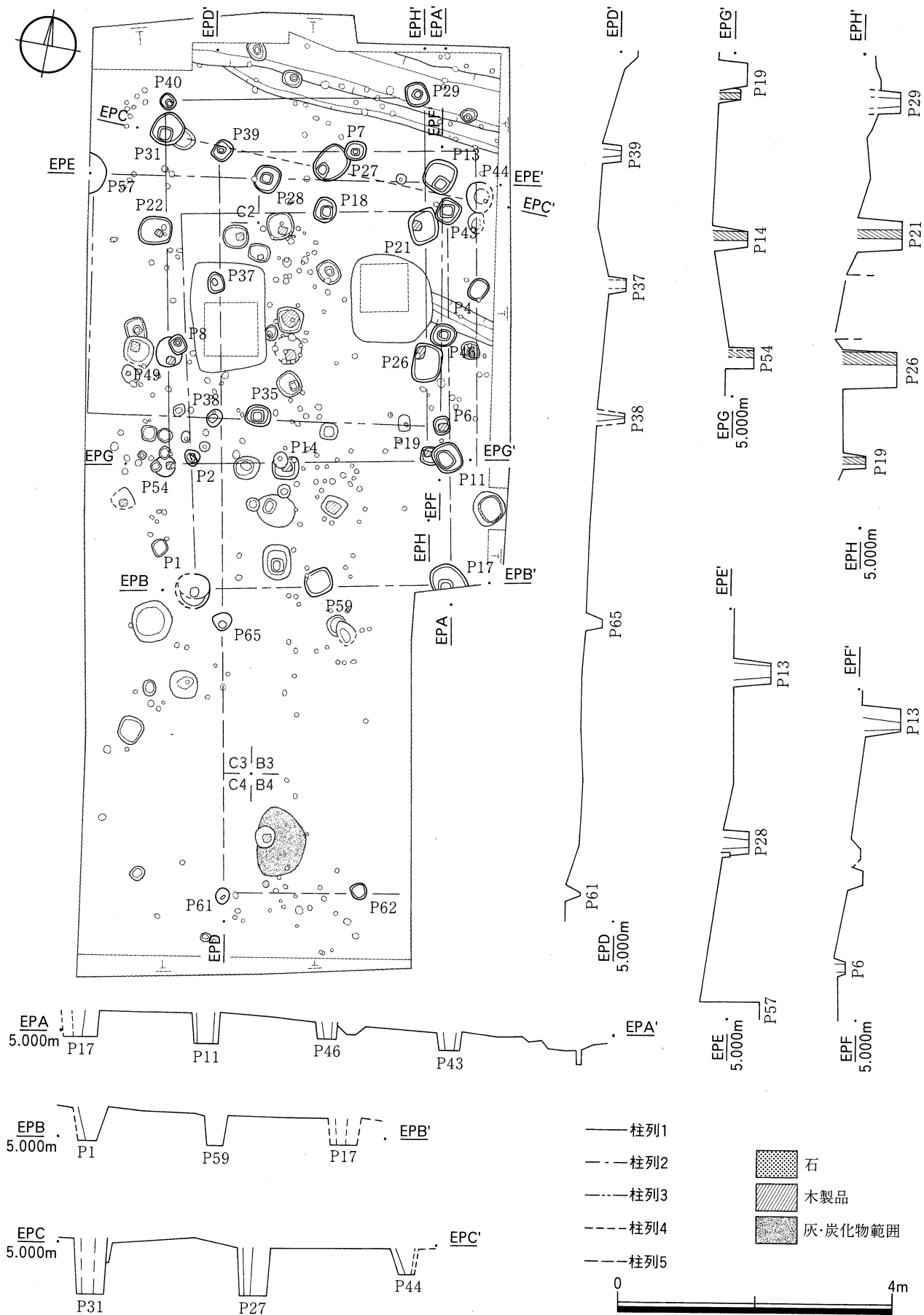


- 土器 (VI層) —— 土器一括範圍 (VI層)
- 土器 (VIb層) - - - 土器一括範圍 (VIb層)

VI層 出土遺物分布圖



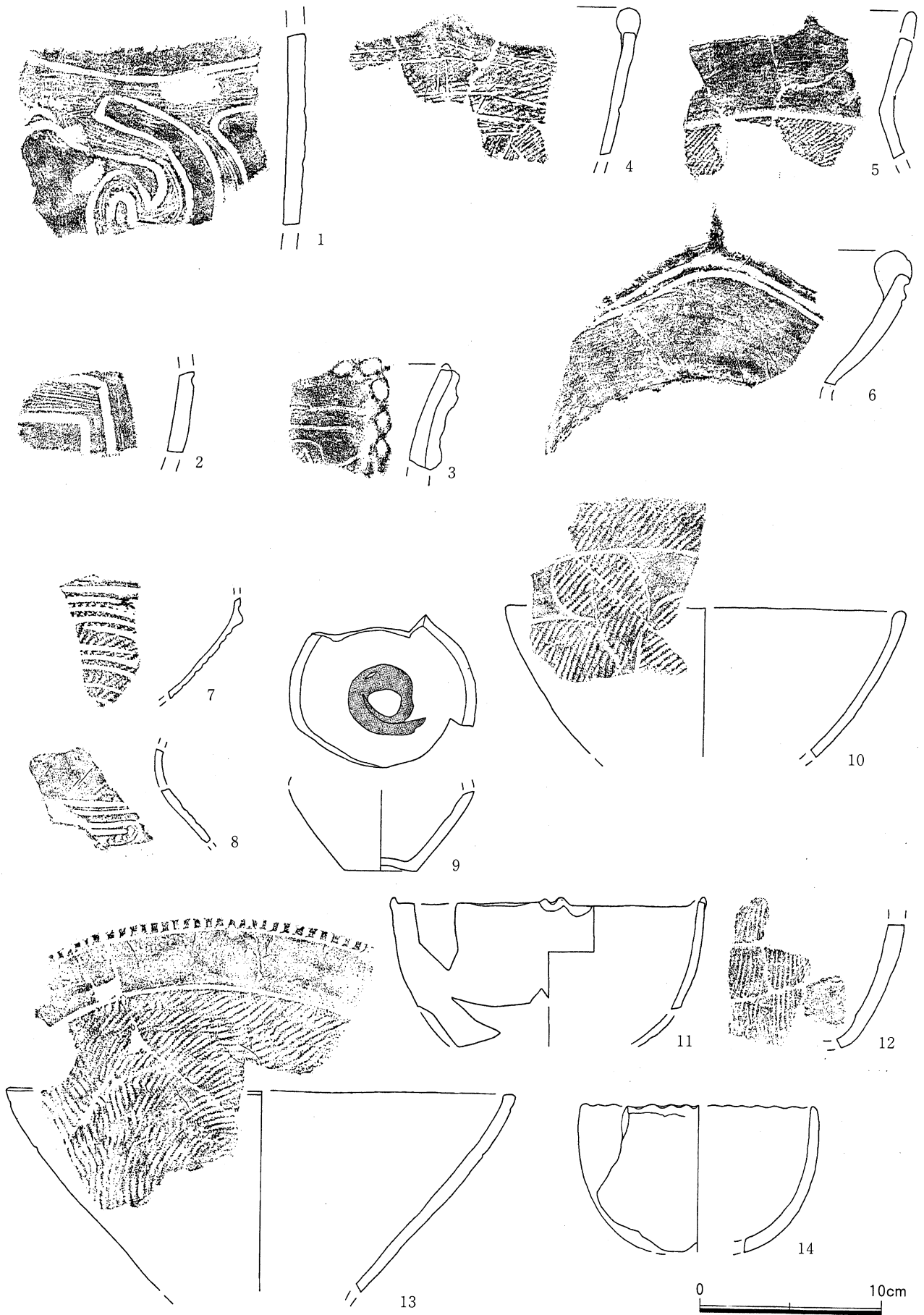
第5圖 出土遺物分布圖2



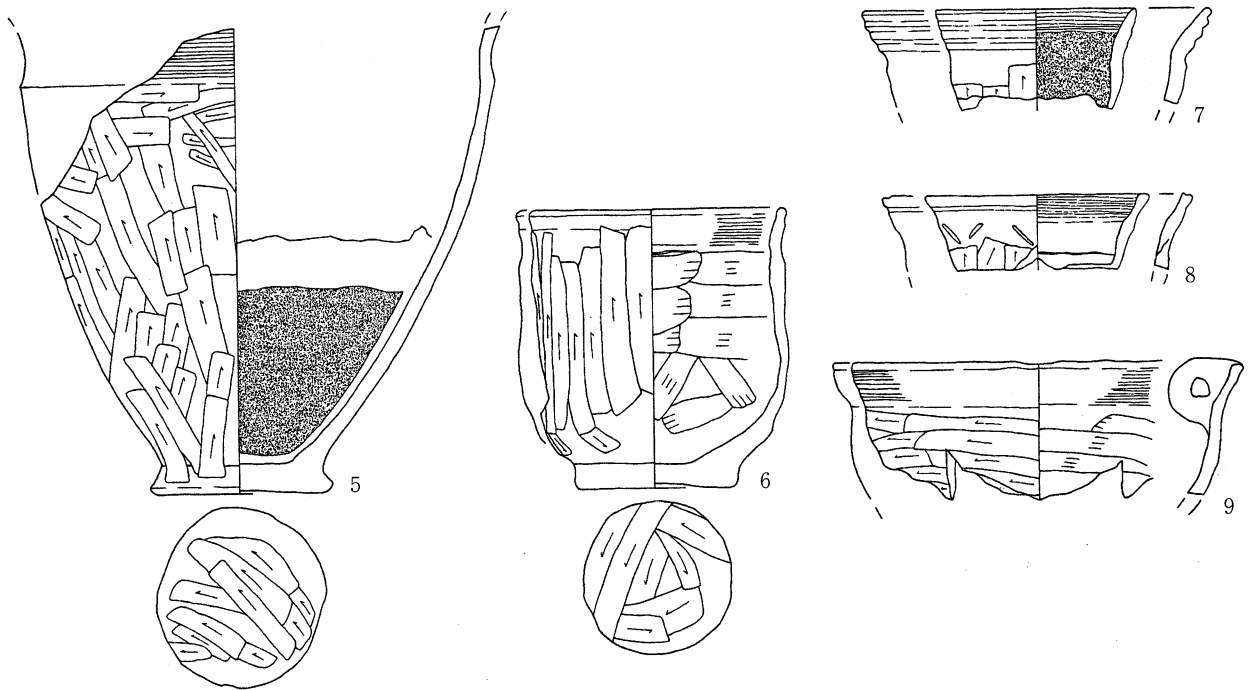
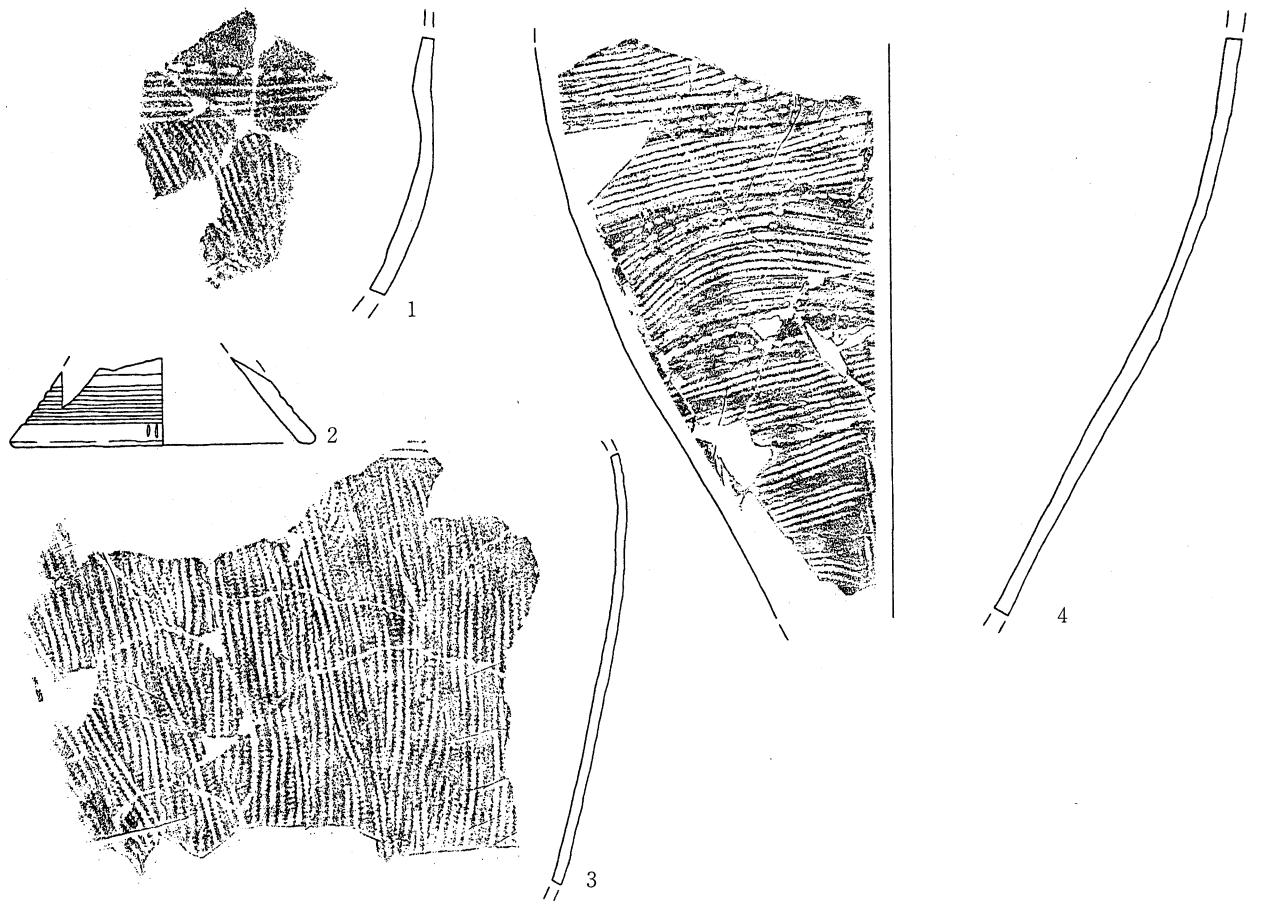
第6図 柱列想定図



第7図 出土遺物1 (土器)

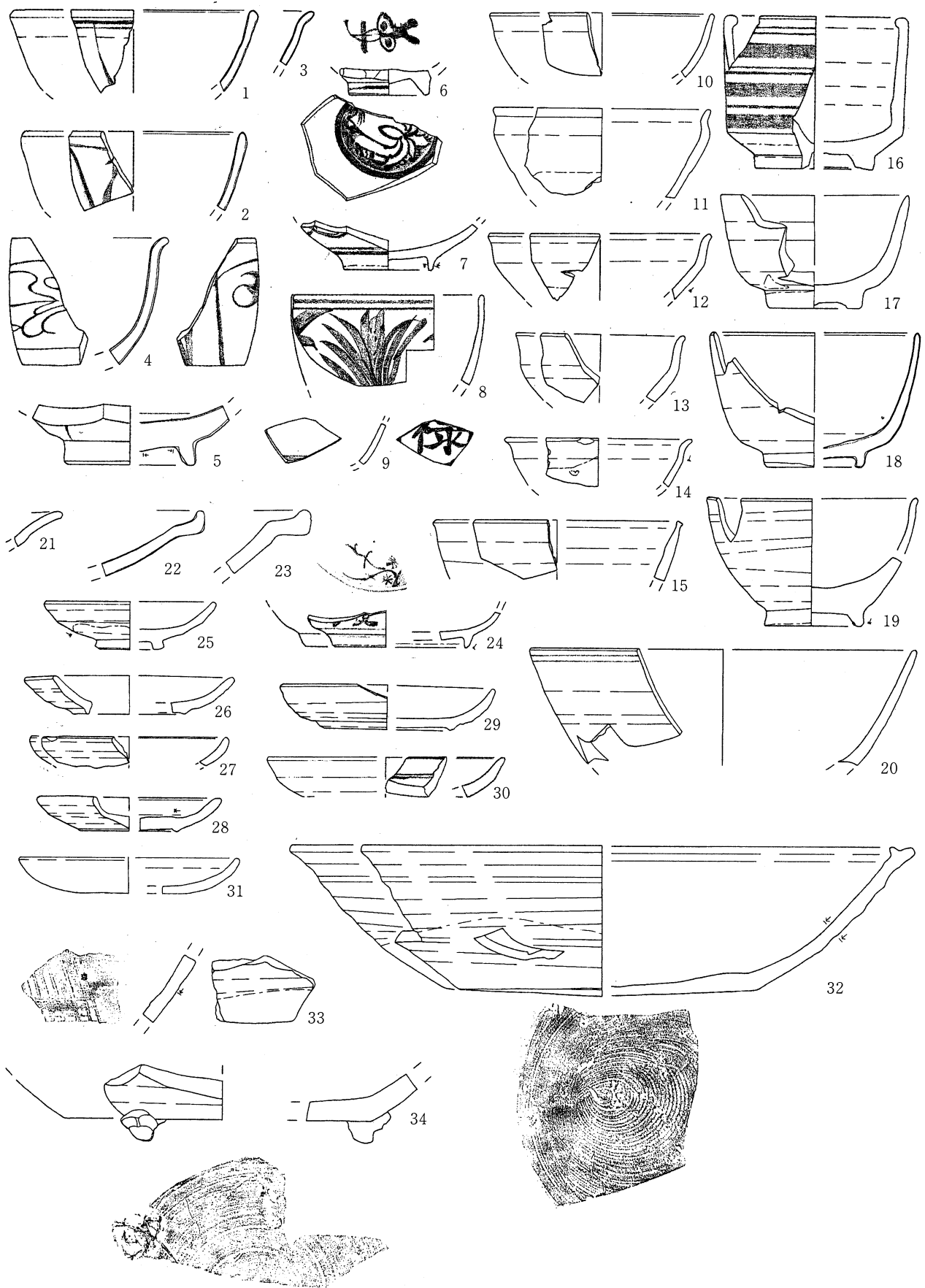


第8图 出土遺物2 (土器)

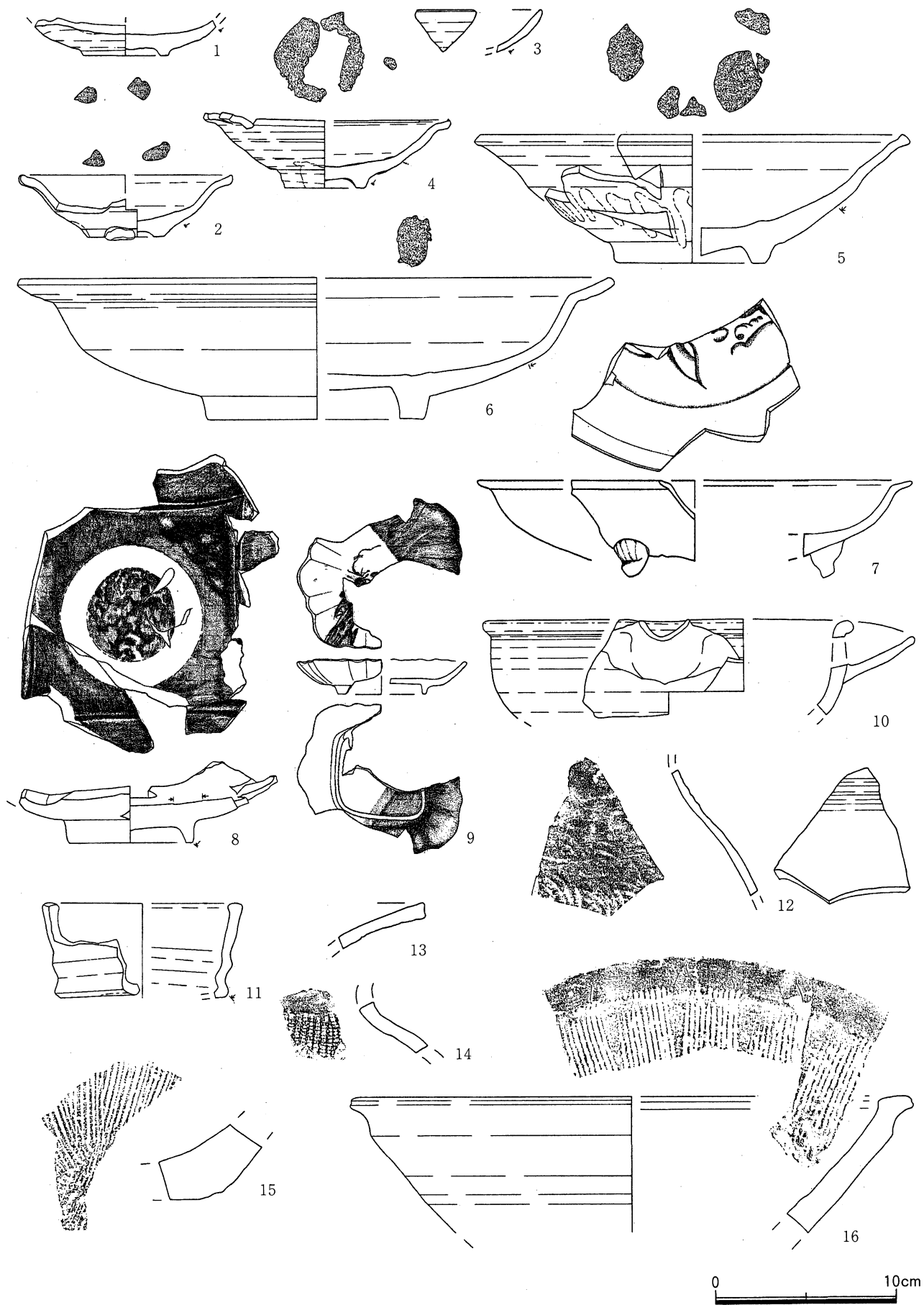


0 10cm

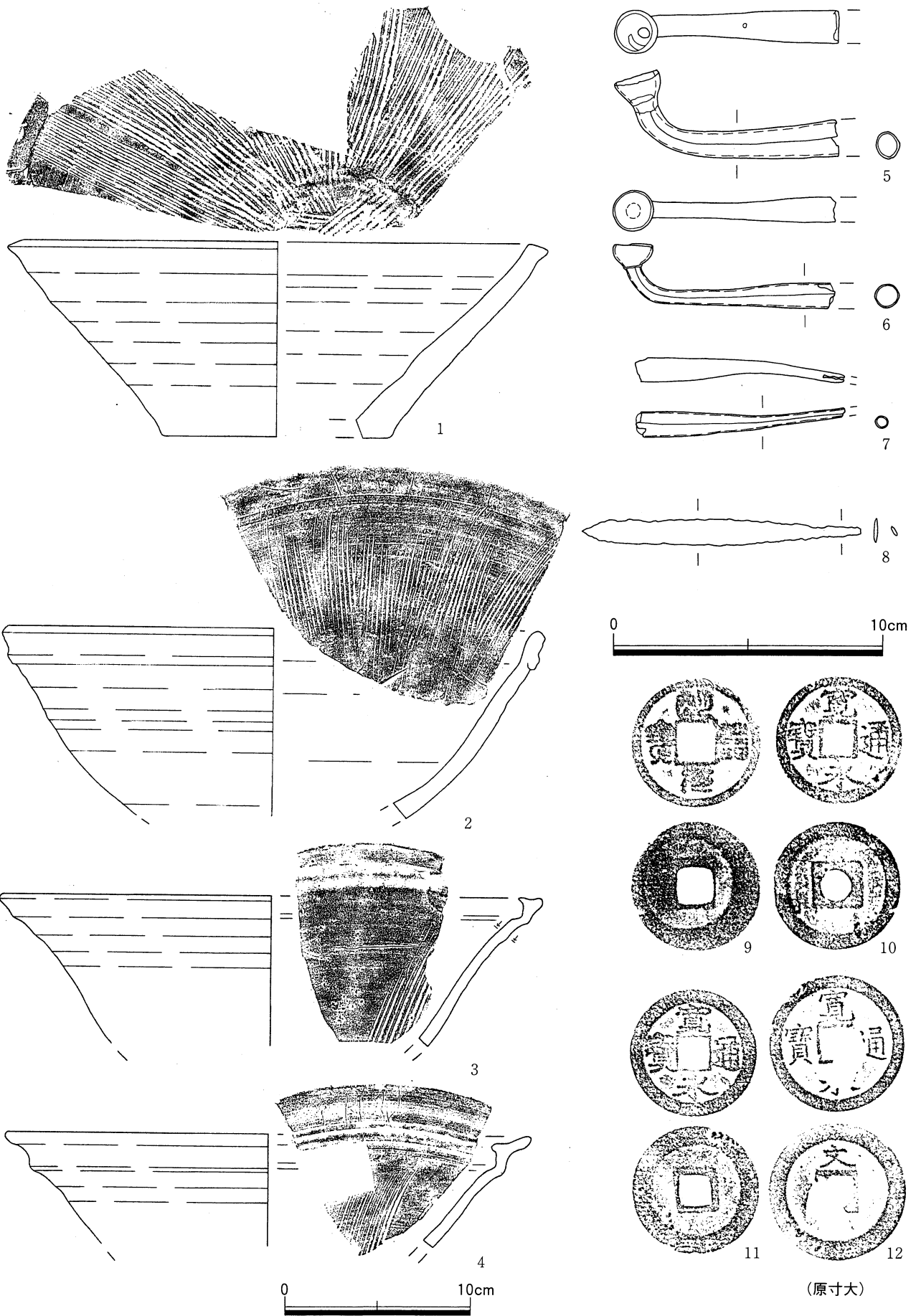
第9図 出土遺物3 (土器)



第10図 出土遺物4 (陶磁器・かわらけ)



第11図 出土遺物5 (陶磁器・須恵器)



第12図 出土遺物6 (陶磁器・銅製品)

史跡上之国花沢館跡

I 調査の概要

1. 調査にいたる経緯

花沢館跡は、天ノ川左岸に位置し、頂上部は標高約60mを測る。天ノ川の対岸には洲崎館跡が位置し、西側約1km先には、勝山館跡が位置している。

花沢館跡は昭和35年に道指定史跡、昭和52年には国指定史跡として登録されている。

昨年には史跡指定地内で初めて発掘調査が行なわれ、空壕跡や15世紀中頃の年代を示す陶磁器などが出土したが、明確な建物跡などの遺構を確認することができなかった。

そのため、今年度は建物跡などの遺構を確認する目的で正面の平坦面、舌状に張り出した平坦地を調査するとともに、昨年検出した空壕跡の続きを確認するため館後方にも調査区を設定した。

2. 調査方法

グリッドは、大グリッドを20m方眼で南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで設定し、それらを組み合わせて6 J、4 K…と表記した。

さらに、大グリッドを4m方眼で25分割して小グリッドを設定し、6 J 21、4 K 3…と表記した。

遺物の取り上げは、I層出土のものは小グリッドを4分割して取り上げ、II層以下のものについては地点と標高値を記録し、層位ごとに取り上げた。

3. 調査経過

7月25日(月)

発掘器材を現場まで搬入し、調査区と周辺の草刈作業を行う。

8月1日(月)

第1・2調査区で表土剥ぎ、及び遺構精査を行う。第2調査区では、溝1が検出される。調査区と周辺の簡易測量を行う。

8月8日(月)

第1調査区で溝2を検出する。第3調査区の表土剥ぎ、及び遺構精査を行う。第3調査区で溝3を検出する。

8月16日(火)

第4調査区の表土剥ぎ、及び遺構精査を行う。

第4調査区の黒色土範囲から、珠洲播鉢などが出土する。

8月22日(月)

第1調査区で柵列跡を確認した。第4調査区で検出した溝状黒色土範囲の遺物出土状況を撮影する。

8月23日(火)

第1調査区のセクション図、完掘平面図を作成する。

第4調査区で空壕跡を検出した。

8月29日(月)

第4調査区の完掘平面図とセクション図を作成する。

9月1日(木)

現地見学会を行う。

9月16日(金)

調査区にナイロンを敷いて埋め戻しを行う。発掘器材を撤収し、発掘調査を終了した。

4. 基本層序

本調査区で確認された基本的な層序は以下のとおりである。

I 層：近現代～現代に相当する堆積層で、3層に細分される。

I a層：現代の表土層である。

I b層：近現代の耕作土・盛土層である。

I c層：大正11年頃の表土層である。

II 層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年降灰のK o - d (駒ヶ岳d)火山灰の層を含む。

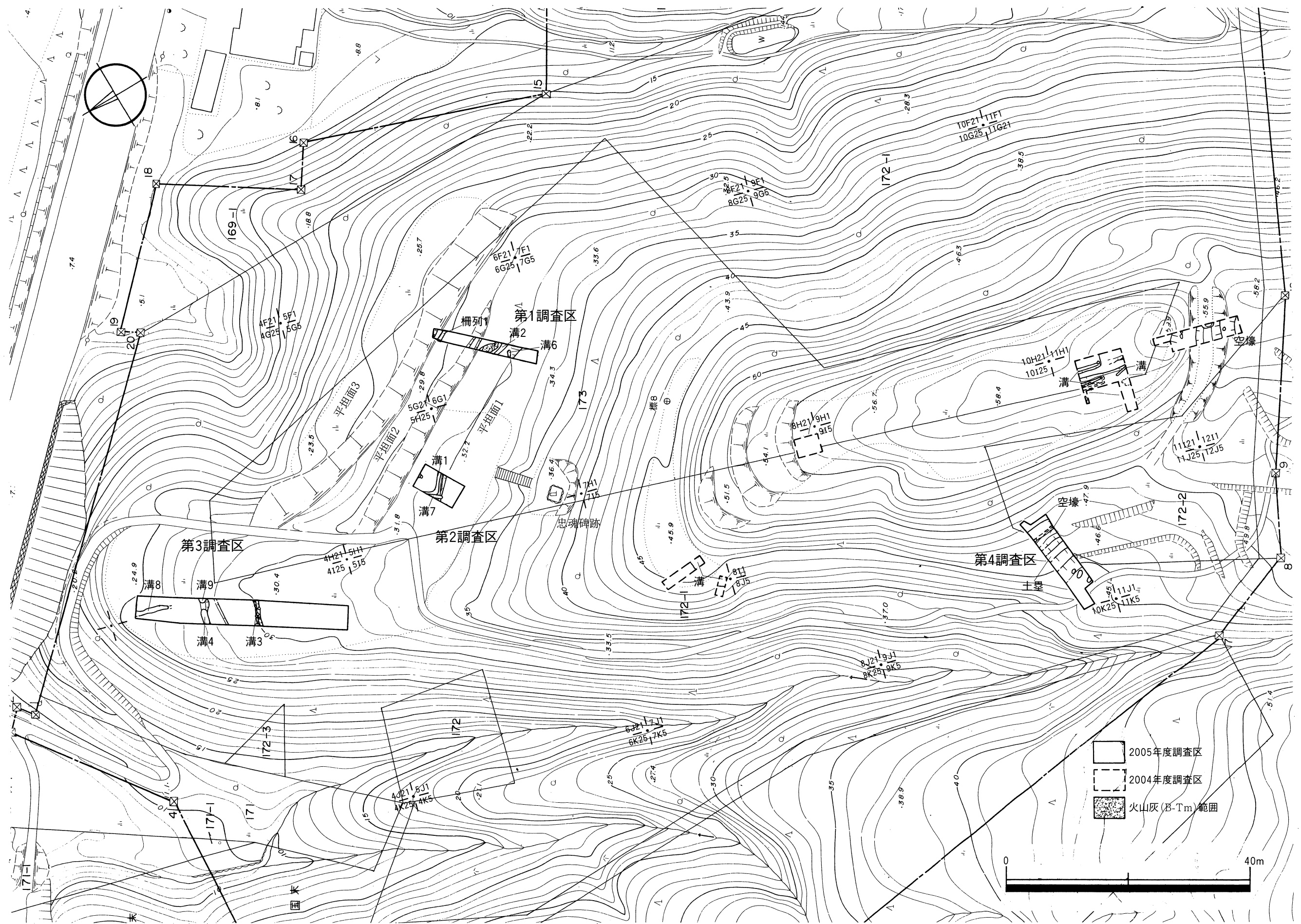
III 層：中世後期(15～16世紀)に相当する整地層である。

IV 層：縄文～擦文時代に相当する堆積層で、3層に細分される。

IV a層：黒色の腐植土層で、擦文期に相当する層である。

IV b層：IV a層の下層に堆積する10世紀中葉以降のB - T m (白頭山-苦小牧)火山灰である。

IV c層：IV b層の下層に堆積する黒色の腐植土層で縄文時代に相当する堆積層である。



第13図 遺構配置図

II 遺構確認調査

1. 検出遺構

第1調査区 (第14図、PL 2-1・2、4-11~5-1)

〔位置〕 6 G グリッドに位置する。

〔堆積土〕 忠魂碑建設当時 (大正11年) に整地をした、厚さ約50cmの盛土 (I b層) を確認した。盛土はロームを多く含むため、地山を削平して現在見られる平坦地を造成したと思われる。

〔検出遺構〕 柵列1、溝2、溝6を検出した。

〔出土遺物〕 近現代の盛土から、石製品の茶臼1点が出土している。

柵列1 (第14図、PL 2-2)

〔位置〕 6 G 8 グリッドの平坦面2に位置する。

〔形態・規模〕 南東から北西方向へ直線的に伸び、長さは残存値で200cm、幅約30cm、深さ約33cmを測る。底面に直径約20cm、深さ10~20cmの杭穴 (P 1~4) を4基伴う。

〔堆積土〕 3層に分層される (SPA~SPA')。

〔新旧関係〕 なし 〔出土遺物〕 なし

溝2 (第14図、PL 4-13)

〔位置〕 6 G 17 グリッドに位置する。溝2は位置や形態・規模・堆積土から、第2調査区で検出した溝1に繋がる可能性がある。

〔形態・規模〕 南東から北西方向へ直線的に伸び、長さは残存値で204cm、幅約44cm、深さ約30cmを測る。

〔堆積土〕 自然堆積を呈し、覆土上面にK o-r dが層状に堆積し、2層に分層される (SPA~SPA')。

〔新旧関係〕 なし 〔出土遺物〕 なし

溝6 (第14図、PL 4-13)

〔位置〕 6 G 17 グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 北西から南東方向へ伸び、先端部で東へ曲がる。長さは残存値で100cm、幅約40、深さ約19cmを測る。

〔堆積土〕 自然堆積を呈し、2層に分層される (SPA~SPA')。

〔新旧関係〕 なし 〔出土遺物〕 なし

第2調査区 (第15図、PL 5-2~6)

〔位置〕 5 H・6 H グリッドに位置する。

〔堆積土〕 第1調査区同様の盛土が約60cmの厚さで堆積しているのを確認した。

〔検出遺構〕 溝1、溝7、焼土1を検出した。

〔出土遺物〕 なし

溝1 (第15図、PL 5-5)

〔位置〕 5 H 17・22・23グリッドの平坦面2に位置する。

〔形態・規模〕 南東から北西方向へ伸び、北東方向へほぼ直角に曲がる。長軸は残存値で510cm、短軸約44cm、深さ約14cmを測る。

〔堆積土〕 4層に分層され、暗褐・黒褐色を呈し、自然堆積である (SPA~SPA')。

〔新旧関係〕 切り合い関係から、溝7より古い。

〔出土遺物〕 なし

溝7 (第15図、PL 5-6)

〔位置〕 5 H 17・22グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 南西から北東方向へ伸び、長さは残存値で220cm、幅約40cm、深さ約20を測る。

〔堆積土〕 ロームブロックや玉砂利などが多く混入し、6層に分層される (SPF~SPF')。

〔新旧関係〕 切り合い関係から、溝1より新しい。

〔出土遺物〕 なし

焼土1 (第15図、PL 2-5)

〔位置〕 5 H 18グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 平面形は楕円形を呈し、長軸42cm、短軸32cm、深さ8cmを測る。

〔堆積土〕 赤褐色のローム粒を多く含む。

〔新旧関係〕 なし 〔出土遺物〕 なし

第3調査区 (第16図、PL 2-6・8、5-7~15)

〔位置〕 3 H、4 I グリッドに位置する。

〔堆積土〕 表土層の約10~15cm下にローム層 (V層) が堆積する。

〔検出遺構〕 溝3・4・8・9を検出し、平坦地が2面確認された。また、作物の植え付け用と思われる穴 (攪乱) が多数確認された。

〔出土遺物〕 溝3から鉄製品の釘、V層直上からガラスや近現代陶磁器が出土している。

溝3 (第16図、PL 2-6・8、5-8~11)

〔位置〕 4 I 4・5グリッドに位置する。

〔形態・規模〕 西から東方向へ直線的に伸び、長さは400cm、幅約22cm、深さ底面に直径約20cm、深さ10~20cmの杭穴 (P 5~12) を8基伴う。

〔堆積土〕 1層に分層される (SPB~SPB')。

〔新旧関係〕 なし

〔出土遺物〕 覆土から木質が付着した鉄釘1点が出土している。

溝4 (第16図、P L 2-8・5-13)

〔位置〕3 I 20グリッドに位置する。

〔形態・規模〕西から東方向へ直線的に伸び、長さは残存値で280cm、幅約100cm、深さ約20cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、覆土上面にK o-r-dが層状に堆積し、2層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

溝8 (第16図、P L 5-12・15)

〔位置〕3 H 6・11グリッドに位置する。

〔形態・規模〕南から北方向へ直線的に伸び、長さは残存値で540cm、幅約50cm、深さ約20cmを測る。

〔堆積土〕人為的堆積を呈し、5~10cm大のロームブロックが多量に混入している。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

溝9 (第16図、P L 5-14)

〔位置〕3 H 16、3 I 20グリッドに位置する。

〔形態・規模〕西から東方向へ伸び、長さは残存値で50cm、幅約104cm、深さ約10cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、4層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

第4調査区 (第17図、P L 2-7・9、6)

〔位置〕10 J グリッドに位置する。

〔堆積土〕空壕の掘り上げ土と思われる盛土(土壘)が堆積している。

〔検出遺構〕空壕跡、土壘、土壙1~3を検出した。なお、今回遺構とはしなかったが、遺物が集中して見られた溝状黒色土範囲の概要をここで述べる。

〔出土遺物〕青磁碗8点、白磁皿6点、珠洲播鉢169点、銅銭6点が出土している。

空壕 (第17図、P L 2-9・6-5)

〔位置〕10 J 13・14・18・19グリッドに位置する。

〔形態・規模〕箱掘を呈し、南から北方向へ伸び、長さは残存値で398cm、上面幅約200~220cm、底面幅80~100cm、深さ約94cmを測る。

〔堆積土〕5~10cm大の玉砂利を多量に含み、人為的堆積を呈す。10層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕溝状黒色土範囲より下位の堆積が確認されたため、溝状黒色土範囲より古い。

〔出土遺物〕なし

土壘 (第17図、P L 6-6・7)

〔位置〕10 J 13・18グリッドに位置する。

〔形態・規模〕長さは残存値で394cm、幅約127cm、深さ約128cmを測る。

〔堆積土〕玉砂利を多量に含み、13層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕土壙1~3より古い。

〔出土遺物〕なし

溝状黒色土範囲 (第17図、P L 6-5・8)

〔位置〕10 J 14・19グリッドに位置する。

〔形態・規模〕長さは残存値で390cm、幅約190cm、深さ約18cmを測る。

〔堆積土〕4層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕空壕埋没後の堆積が確認されたため、空壕より新しい。

〔出土遺物〕青磁碗2点、珠洲播鉢39点、銅銭2点が出土している。

土壙1 (第17図、P L 6-11)

〔位置〕10 J 17グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸142cm、短軸50cm、深さ約28cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、覆土上面にK o-r-d火山灰が層状に堆積し、6層に分層される(SPA~SPA')。

〔新旧関係〕切り合い関係から土壘より新しい。

〔出土遺物〕なし

土壙2 (第17図、P L 6-9・10)

〔位置〕10 J 21・22グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸は残存値で76cm、短軸52cm、深さ約25cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、覆土上面にK o-r-d火山灰が層状に堆積し、5層に分層される(SPB~SPB')。

〔新旧関係〕切り合い関係から土壘より新しい。

〔出土遺物〕なし

土壙3 (第17図、P L 6-12)

〔位置〕10 J 17グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸70cm、短軸40cm、深さ約20cmを測る。

〔堆積土〕黒色・黒褐色を呈し、自然堆積である。

〔新旧関係〕切り合い関係から土壘より新しい。

〔出土遺物〕なし

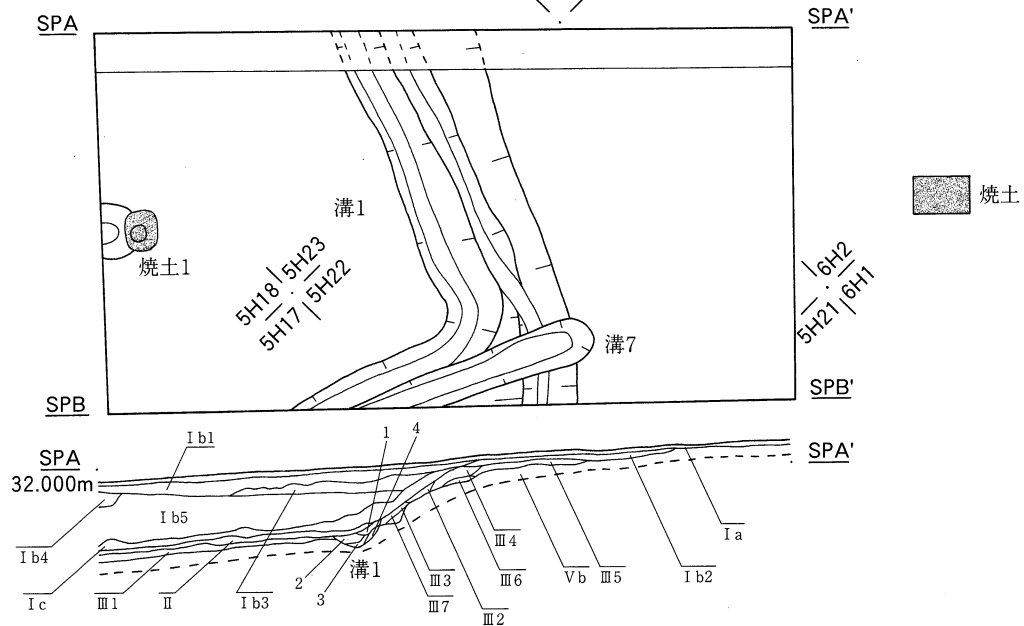


表8 第2調査区 南北東壁セクション (SPA~SPA')

I a	10YR3/3	暗褐色	玉砂利(1~3cm大)少量	シルト ややソフト	
I b1	10YR3/3	暗褐色	玉砂利(1~3cm大)少量	シルト ややハード	
I b2	10YR5/4	にぶい黄褐色	玉砂利(1~3cm大)少量	シルト ややハード	
I b3	10YR2/3	黒褐色	玉砂利(1~3cm大)少量	シルト ややソフト	炭粒微量
I b4	10YR4/4	褐色	Ko-d粒少量	シルト ややハード	
I b5	10YR2/3	黒褐色	玉砂利(1~3cm大)少量 Ko-dブロック(3~5cm大) 中量、明黄褐色ロームブロック多量	シルト ハード	
I c	10YR2/3	黒褐色	Ko-d層状に多量	シルト ややハード	
II	10YR2/3	黒褐色		シルト ややハード	
III 1	10YR2/1	黒褐色		シルト ややソフト	炭粒少量

III 2	10YR2/3	黒褐色		シルト ややソフト	炭粒微量
III 3	10YR2/2	黒褐色	Ko-d粒微量	シルト ややソフト	炭粒微量
III 4	10YR3/4	暗褐色		シルト ソフト	
III 5	10YR4/4	褐色		シルト ソフト	炭粒微量
III 6	10YR4/4	褐色	Ko-d粒微量	シルト ややソフト	
III 7	10YR3/4	暗褐色	Ko-d粒微量	シルト ややソフト	
V b	10YR5/6	黄褐色	玉砂利(1~3cm大)少量 Ko-d粒少量	ハード	
溝1	1	10YR2/1	黒色	シルト ソフト	炭粒少量
	2	10YR1.7/1	黒褐色	シルト ややソフト	炭粒少量
	3	10YR1.7/1	黒褐色	シルト ソフト	炭粒少量
	4	10YR2/1	黒褐色	シルト ソフト	炭粒少量

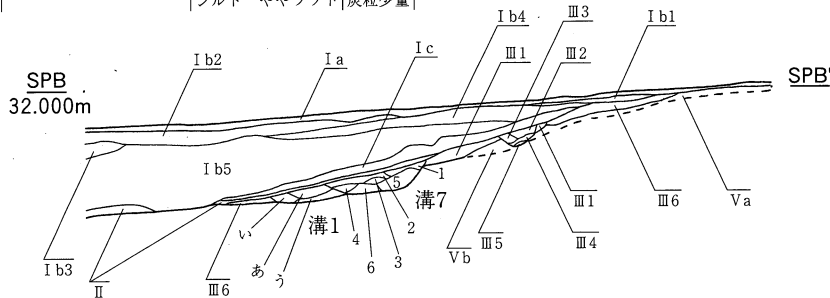


表9 第2調査区 南北西壁セクション (SPB~SPB')

I a	10YR2/3	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト	
I b1	10YR4/3	にぶい黄褐色		ややハード	
I b2	10YR4/3	にぶい黄褐色	ハードローム・玉砂利少量	シルト	炭少量
I b3	10YR4/4	褐色	ハードローム少量	シルト	炭微量
I b4	10YR3/3	暗褐色	ハードローム・玉砂利少量	シルト	炭微量
I b5	10YR2/3	黒褐色	玉砂利(1~3cm大)少量 Ko-dブロック(3~5cm大) 中量、明褐色ロームブロック多量	シルト ハード	
I c	10YR3/2	黒褐色		シルト ややソフト	
II	10YR2/3	黒褐色	Ko-d層状に多量	シルト ややハード	
III 1	10YR3/2	黒褐色	ローム粒少量	シルト ソフト	
III 2	10YR2/2	黒褐色	ローム粒少量	シルト ソフト	
III 3	10YR3/3	暗褐色		シルト ややソフト	
III 4	10YR3/4	暗褐色		シルト	
III 5	10YR3/3	暗褐色		シルト ソフト	炭微量

III 6	10YR4/3	にぶい黄褐色	ソフトローム少量	湿性	炭微量
V a	10YR4/6	褐色	ソフトローム主体	ソフト	
V b	10YR4/4	褐色	ハードローム主体	シルト ハード	
溝1	あ	10YR2/1	黒色	シルト ややハード	
	い	10YR2/3	黒褐色	シルト ややハード	
	う	10YR2/3	黒褐色	シルト ややハード	
溝7	1	10YR3/3	暗褐色	シルト ソフト	
	2	10YR3/2	黒褐色	やや密	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト ややソフト	
	4	10YR3/2	黒褐色	シルト ややソフト	炭粒少量
	5	10YR4/4	褐色	シルト ややハード	炭粒微量
	6	10YR4/4	褐色	シルト ややハード	



第15図 第2調査区平面図他

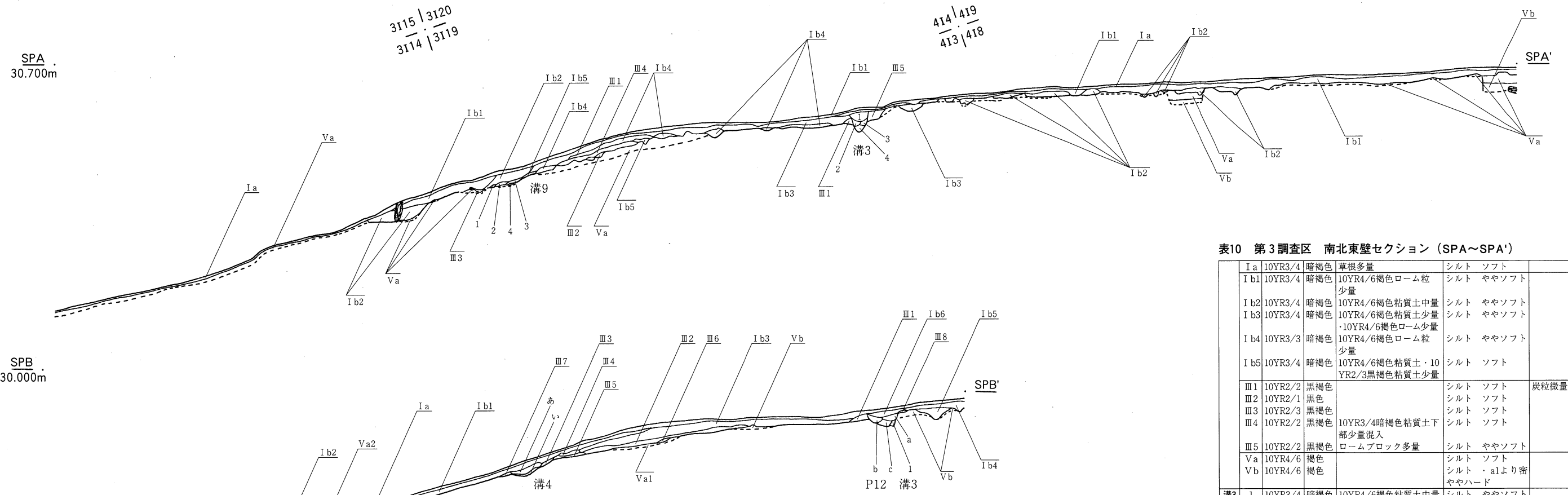
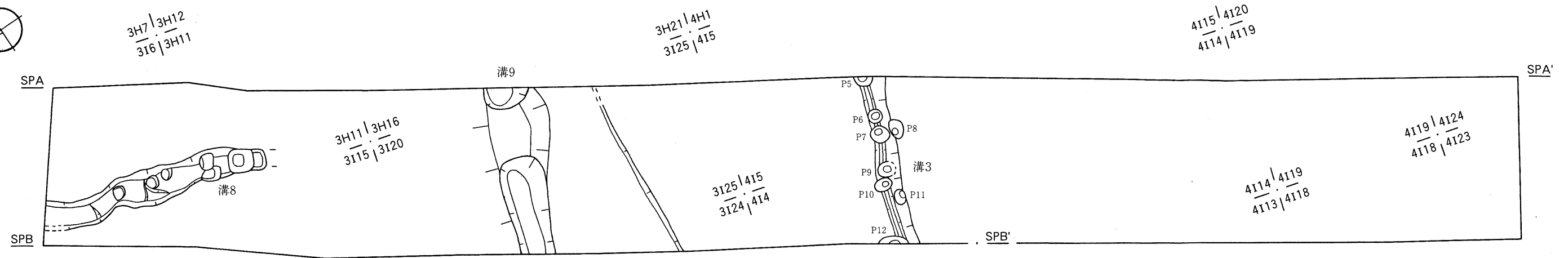


表10 第3調査区 南北東壁セクション (SPA~SPA')

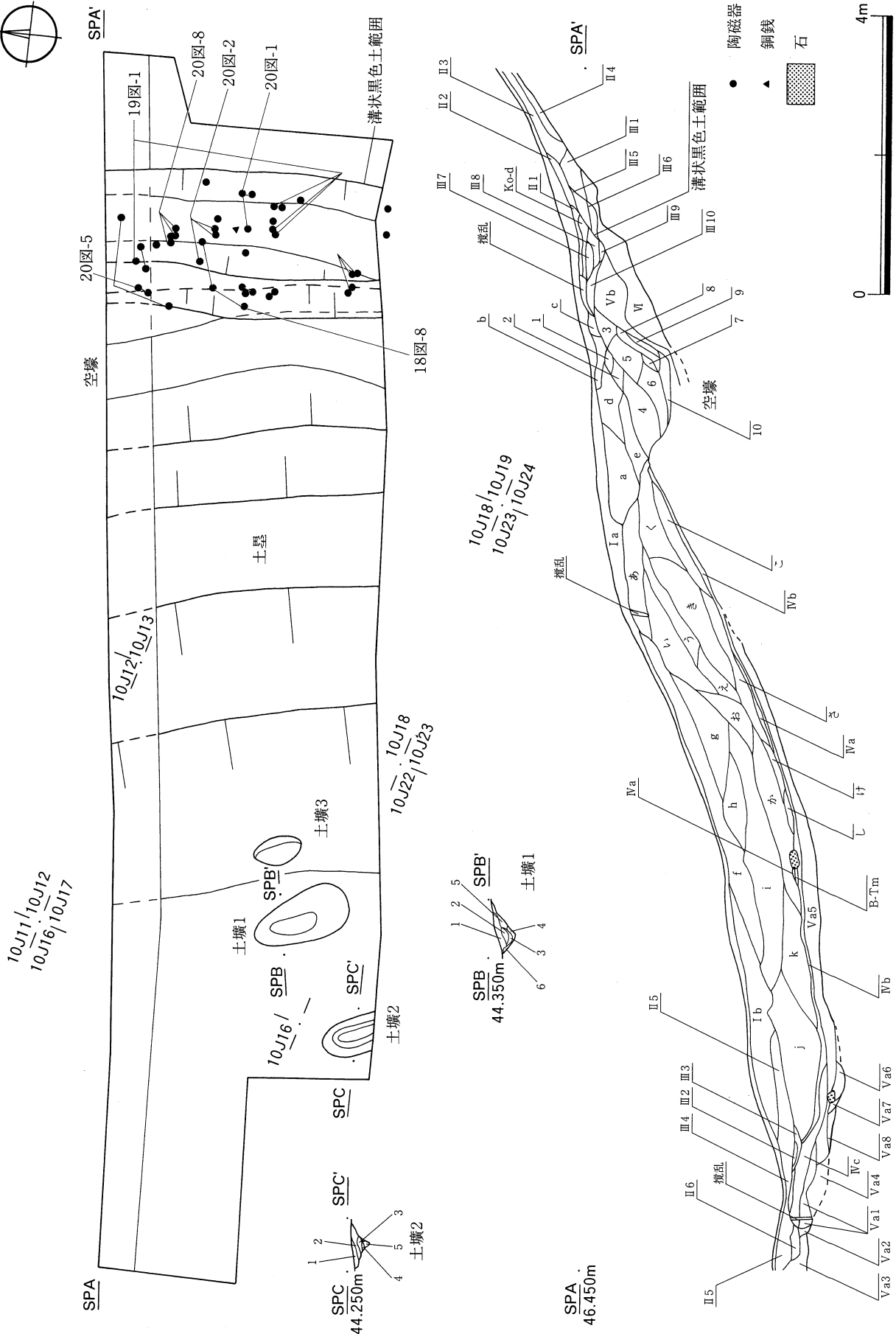
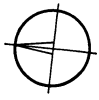
I a	10YR3/4	暗褐色	草根多量	シルト	ソフト	
I b1	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色ローム粒 少量	シルト	ややソフト	
I b2	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土中量	シルト	ややソフト	
I b3	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土少量 ・10YR4/6褐色ローム少量	シルト	ややソフト	
I b4	10YR3/3	暗褐色	10YR4/6褐色ローム粒 少量	シルト	ややソフト	
I b5	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土・10 YR2/3黒褐色粘質土少量	シルト	ソフト	
III 1	10YR2/2	黒褐色		シルト	ソフト	炭粒微量
III 2	10YR2/1	黒色		シルト	ソフト	
III 3	10YR2/3	黒褐色		シルト	ソフト	
III 4	10YR2/2	黒褐色	10YR3/4暗褐色粘質土下 部少量混入	シルト	ソフト	
III 5	10YR2/2	黒褐色	ロームブロック多量	シルト	ややソフト	
V a	10YR4/6	褐色		シルト	ソフト	
V b	10YR4/6	褐色		シルト	・aより密 ややハード	
溝3	1	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土中量	シルト	ややソフト
	2	10YR2/3	黒褐色	10YR4/6褐色粘質土30% 混入	シルト	ソフト
	3	10YR2/3	黒褐色	10YR4/6褐色ローム混入	シルト	ソフト
	4	10YR2/3	黒褐色	10YR3/4暗褐色粘質土中 量・10YR4/6褐色ローム ブロック	シルト	ソフト
溝9	1	10YR4/4	褐色		シルト	ややソフト
	2	10YR2/1	黒色		シルト	ややソフト
	3	10YR2/1	黒色		シルト	ソフト
	4	10YR2/2	黒褐色		シルト	ソフト

表11 第3調査区 南北西壁セクション (SPB~SPB')

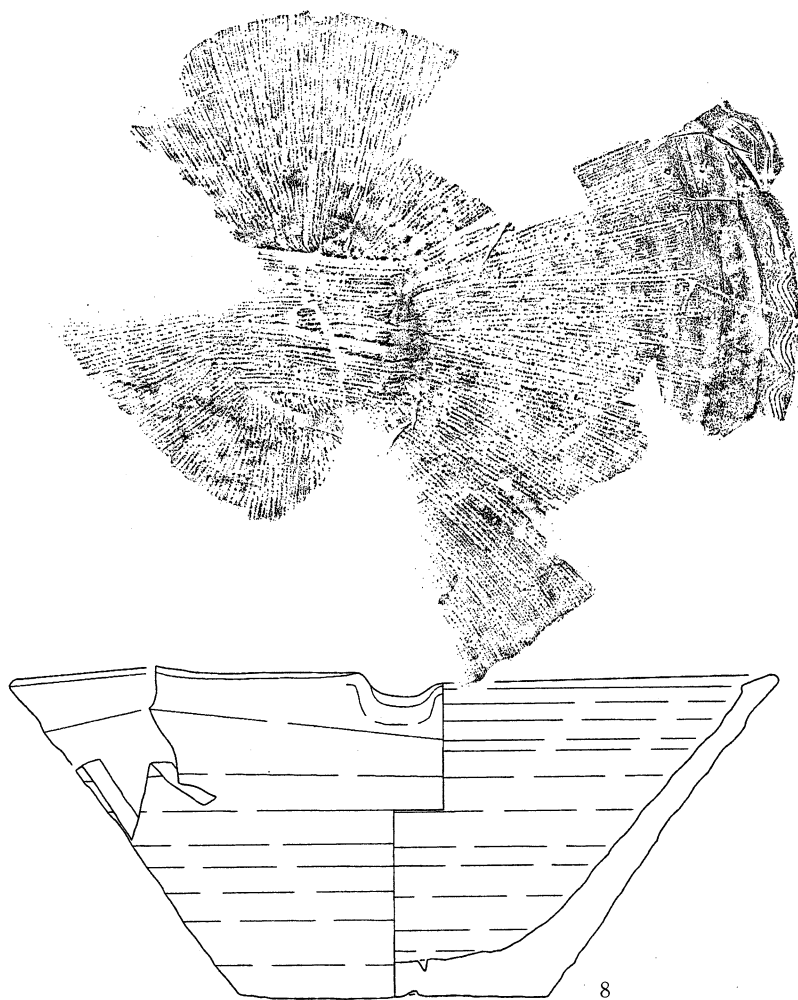
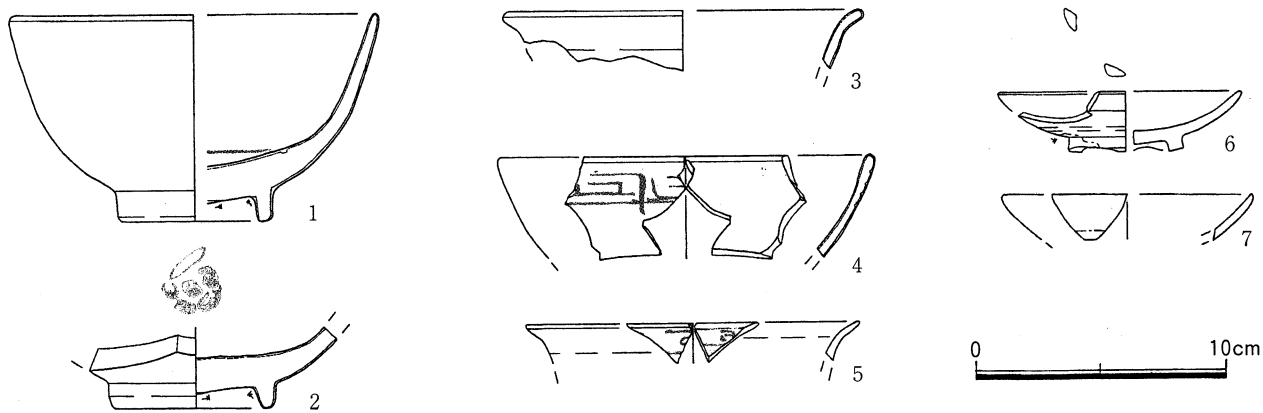
I a	10YR3/4	暗褐色	草根多量	シルト	ソフト	
I b1	10YR3/4	暗褐色		シルト	ソフト	
I b2	10YR2/1	黒色	Ko-d微量	シルト	ややソフト	
I b3	10YR4/4	褐色		シルト	ソフト	
I b4	10YR3/4	暗褐色		シルト	ソフト	
I b5	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土少量	シルト	ソフト	
I b6	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色ロームプロ ック少量	シルト	ややハード	
III 1	10YR2/1	黒色		シルト	ソフト	
III 2	10YR2/3	黒褐色	Ko-d微量混入	シルト	ややソフト	
III 3	10YR2/3	黒褐色	ロームブロック少量	シルト	ややソフト	
III 4	10YR2/2	黒褐色	10YR3/4暗褐色粘質土 少量	シルト	ややソフト	
III 5	10YR2/2	黒褐色		シルト	ソフト	
III 6	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色ブロック5% ロームブロック少量	シルト	ソフト	
III 7	10YR2/3	黒褐色		シルト	ややソフト	
III 8	10YR2/1	黒色		シルト	ややソフト	
V a1	10YR4/6	褐色		シルト	ややソフト	
V a2	10YR3/4	暗褐色	10YR4/6褐色粘質土 微量	シルト	ややソフト	
V a3	10YR4/4	褐色		シルト	ややソフト	
V b	10YR4/6	褐色		シルト	ややソフト	
溝3	1	10YR4/6	褐色		シルト	ソフト
溝4	あ	10YR2/1	黒色	Ko-dが筋状に混入(木 根状) 10YR4/6褐色 粘質土微量	シルト	ソフト
	い	10YR2/2	黒褐色		シルト	ややソフト
P12	a	10YR3/4	暗褐色	10YR2/1黒30%混入	シルト	ややソフト
	b	10YR3/4	暗褐色	10YR2/1黒・10YR4/6 褐色粘質土微量	シルト	ややソフト
	c	10YR3/4	黒褐色	10YR4/6褐色ハード ブロック微量	シルト	ソフト



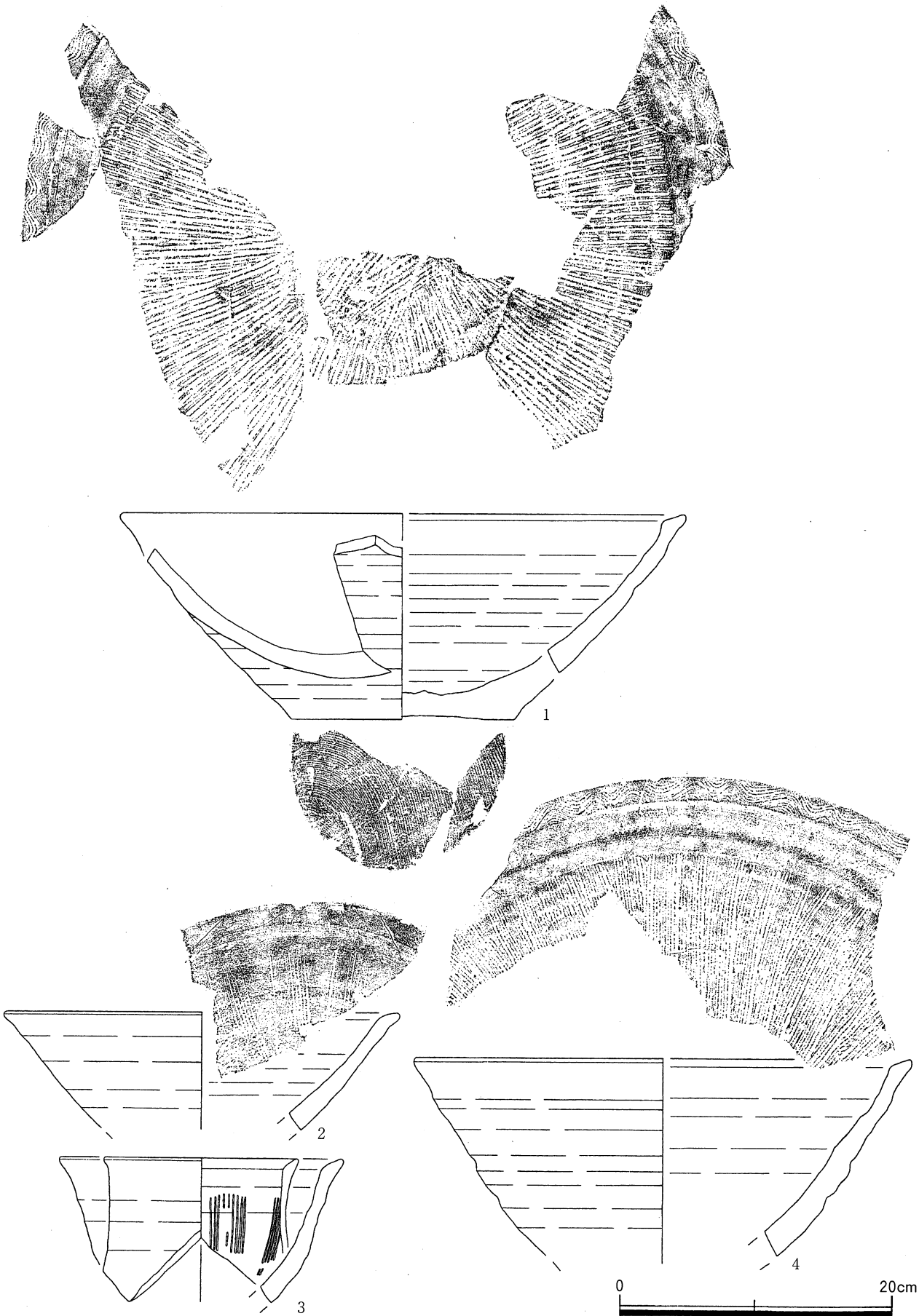
第16図 第3調査区平面図他



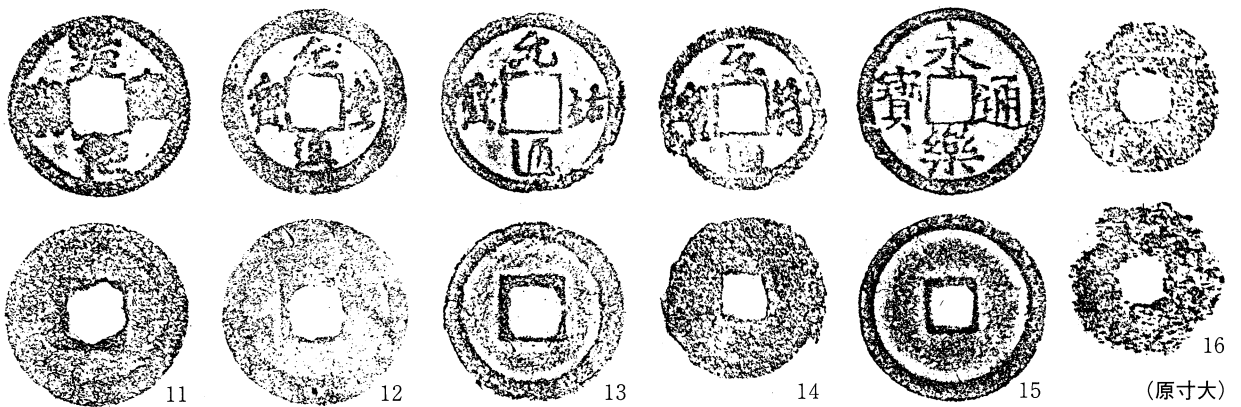
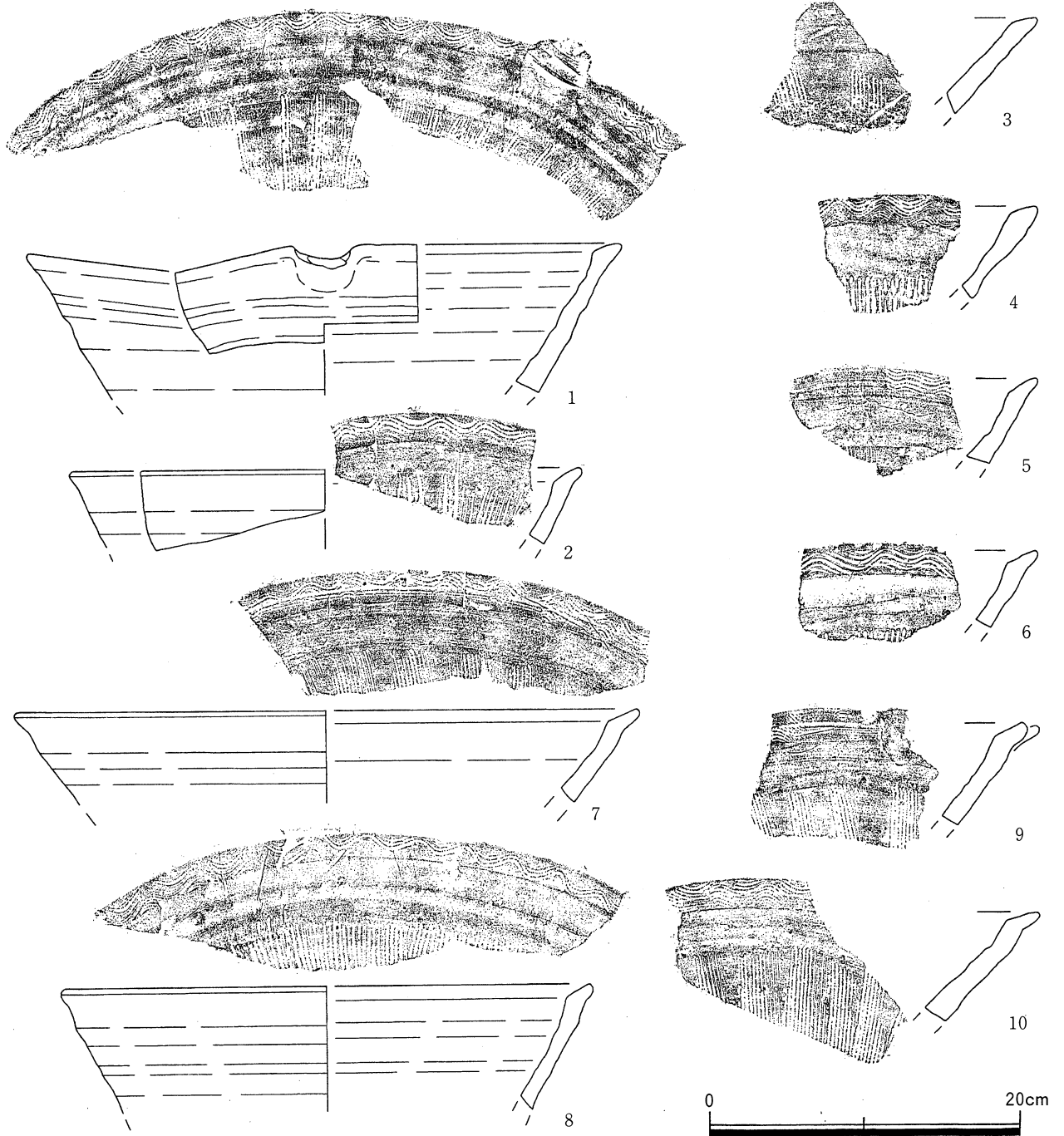
第17図 第4調査区平面図他



第18图 出土遺物7 (陶磁器)



第19図 出土遺物8 (陶磁器)



第20圖 出土遺物9 (陶磁器・銅製品)

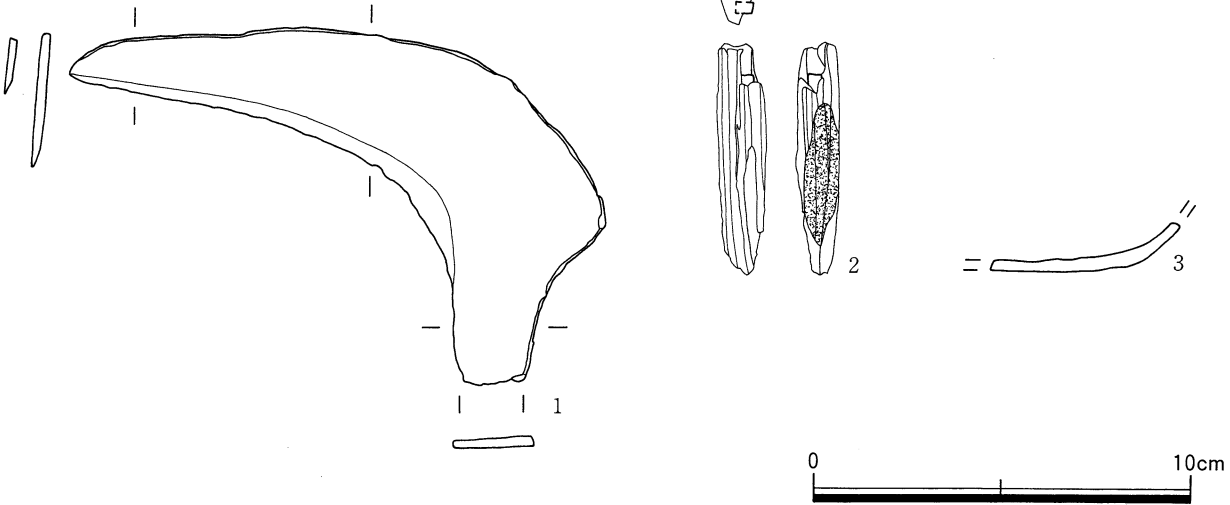


表12 第4調査区 東西北壁セクション (SPA~SPA')

I a	10YR2/2	黒褐色	草根多量 玉砂利混入	ソフト	
I b	10YR2/3	黒褐色	玉砂利多量	ややソフト	
II 1	10YR3/3	暗褐色		ややハード	
II 2	10YR3/1	黒褐色	玉砂利少量		
II 3	10YR3/3	暗褐色	玉砂利多量	ややソフト	
				やや密	
II 4	10YR3/2	黒褐色	玉砂利(1~3cm大)多量	ややソフト	
II 5	10YR2/2	黒褐色	玉砂利・礫粒微量	やや密	
II 6	10YR2/3	黒褐色	玉砂利微量	II-5よりソフト	炭微量
III 1	10YR3/1	黒褐色	玉砂利多量	ソフト	
III 2	7.5YR3/4	暗褐色	黒色土少量混入		
III 3	10YR1.7/1	黒色	7.5YR3/4暗褐色土少量	ソフト	
III 4	10YR2/2	黒色	Ko-d少量		
III 5	10YR3/1	黒褐色	玉砂利中量	ややソフト	
III 6	10YR3/1	黒褐色	玉砂利多量	ややソフト	
溝状 黒色土 範囲	III 7	10YR2/2	黒褐色	玉砂利微量	ハード やや粘質 炭微量
	III 8	10YR2/2	黒褐色	玉砂利少量	ハード やや粘質 炭微量
	III 9	10YR2/2	黒色	玉砂利少量	ソフト 炭化材少量
	III 10	10YR3/2	黒褐色	玉砂利多量	ややハード やや密
	IV a	10YR3/2	黒褐色	B-Tm粒少量	ソフト 炭微量
	IV b	10YR3/3	黒褐色	B-Tm粒多量	ソフト 炭微量
	IV c	10YR3/4	黒褐色	B-Tm粒微量	
	V a1	7.5YR3/3	褐色	玉砂利少量	ややソフト
	V a2	10YR4/6	褐色	玉砂利少量	
	V a3	10YR4/6	褐色	玉砂利少量	ややソフト
	V a4	7.5YR4/6	褐色	玉砂利多量	
	V a5	7.5YR4/6	褐色		
	V a6	10YR2/3	暗褐色	焼土粒微量	シルト ハード 炭微量
	V a7	10YR3/4	暗褐色		
	V a8	10YR3/4	暗褐色		
	V b	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	ハード 密
	VI	10YR3/4	暗褐色	基盤粒・玉砂利少量	シルト ハード
土塁	あ	10YR4/3	にぶい 黄褐色	玉砂利多量	ややハード
	い	7.5YR4/4	褐色	玉砂利多量 基盤礫少量	ややソフト
	う	7.5YR4/4	褐色	玉砂利多量 基盤礫・石少量	ソフト
	え	7.5YR4/4	褐色	玉砂利多量	ややソフト
	お	7.5YR4/4	褐色	玉砂利・石・基盤礫多量	ソフト
	か	7.5YR4/4	褐色	玉砂利・石多量 下面Ko-d多量	
	き	7.5YR4/4	褐色	玉砂利混入	ややハード
	く	7.5YR4/3	褐色	玉砂利少量	シルト ハード
	け	10YR4/4	褐色	玉砂利(1~3cm大)少量	シルト ハード
	こ	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量・ソフトローム少量	ややソフト
	さ	10YR4/4	褐色	玉砂利多量	
	し	10YR4/6		ソフトローム・黒色土・玉砂利少量	
空壕	1	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	ややハード
	2	10YR4/3	にぶい 黄褐色	玉砂利多量	ややハード
	3	10YR4/4	褐色	玉砂利中量	(1)よりやや暗い シルト ややハード 密
	4	10YR3/4	暗褐色	全面玉砂利(5~10cm大)	
	5	10YR4/4	褐色	玉砂利(1~3cm大) ローム多量	密

	6	10YR4/4	褐色	玉砂利(5~10cm大)	(4)より締め有り
	7	10YR4/4	褐色	粘質主体 玉砂利多量	シルト ややハード
	8	10YR4/4	褐色	ハードローム 玉砂利少量	シルト 密
	9	10YR4/4	褐色	ハードローム 玉砂利微量	シルト 密
	10	10YR4/4	褐色	玉砂利(5~10cm大)多量	ソフト 粗
盛土1	a	10YR3/4	暗褐色	ハードローム・玉砂利少量	ソフト
	b	10YR3/4	暗褐色	玉砂利少量	ハード
	c	10YR4/4	褐色	玉砂利少量	ハード
	d	10YR3/4	暗褐色	ハードローム・玉砂利少量	ソフト
	e	10YR4/6	褐色	ハードローム・玉砂利少量	ソフト
盛土2	f	10YR4/3	にぶい 黄褐色	玉砂利多量	シルト ソフト 炭微量
	g	10YR4/3	にぶい 黄褐色	玉砂利・石中量	粗 ややソフト
	h	7.5YR4/4	褐色	玉砂利多量	粗 ややソフト 炭微量
	i	10YR3/4	褐色	玉砂利・基盤礫多量	粗 ややソフト
	j	10YR4/4	褐色	玉砂利多量	ややハード
	k	10YR4/4	褐色	玉砂利多量	ややソフト

表13 第4調査区 土壌1 (SPB~SPB')

土壌1	1	10YR3/1	黒褐色	Ko-d粒微量	シルト ややソフト
	2	10YR3/1	黒褐色	Ko-d粒・ローム粒微量	シルト ややソフト
	3	10YR2/1	黒色		シルト ややソフト
	4	10YR3/1	黒褐色	ロームブロック少量	シルト ややソフト
	5	10YR3/3	暗褐色	径1~2cm大玉砂利少量	シルト ややソフト
	6	10YR3/3	黒褐色		シルト ソフト

表14 第4調査区 土壌2 (SPC~SPC')

土壌2	1	10YR2/2	黒褐色	Ko-d層少量	シルト ソフト
	2	10YR3/1	黒褐色		シルト ややソフト
	3	10YR3/1	黒褐色	玉砂利少量	シルト ややソフト
	4	10YR2/1	黒色		シルト ソフト
	5	10YR3/1	黒褐色	ローム粒少量	シルト ややハード

第21図 出土遺物10 (鉄製品)

2. 出土遺物

本調査からは、破片数で209点の遺物が出土している。実測・写真等の報告書掲載遺物に関しては、観察表を付した(表15)。

a. 陶磁器 (18~20図-10、P L 11-1~22)

中世陶磁器は総破片数 183 点で、個体数にして 4.67 個体(口縁部個体数)である。貿易陶磁は、青磁 8 点、白磁 6 点で構成される。国産陶磁は、珠洲 169 点のみで構成され、全体として珠洲が大きな割合を占めている。

遺物のほとんどは、第 4 調査区の溝状黒色土範囲からの出土である。

青磁 (18図-1~4、P L 2-13, 11-1~4)

器種は碗で構成され、龍泉窯系碗 D 2 類 2 点、龍泉窯系碗 E 類 5 点、龍泉窯系碗類不明 1 点が出土している。見込みは印花文を施し、高台裏は釉が輪状に削り取られるものが多く見られる。

なお、昨年度調査で、龍泉窯系碗 C 2 類の外開口縁部に雷文帯を施すものが 1 点出土しているが、昨年度調査報告書で未報告であったため今年度報告書に掲載した。

白磁 (18図-6・7、P L 11-5~7)

器種は皿で構成され、D 群丸皿が出土している。高台は切高台である。

染付 (18図-5、P L 2-13)

本調査では出土しなかった。なお、昨年度調査で、端反碗 B 群が出土しているが、昨年度調査報告書で未報告のため今年度報告書に掲載した。

珠洲 (18図-8~20図-10、P L 11-9~22)

器種は播鉢で構成され、吉岡編年 V~VI 期に相当するものが出土している(吉岡1994)。口縁部に櫛目波状文を施さないものが少量見られる。

接合関係では、第 4 調査区と昨年度の頂上部で行なわれた発掘調査から出土したものが接合している。

b. その他 (20図-11~21-3、P L 11-23~26-33)

鉄製品は、鉄釘 1 点、鎌 1 点、茶釜? 1 点出土している。銅製品は、銭が最古銭を熙寧元寶(北宋1068年)、最新銭を永樂通寶(明1408年)として 6 点出土している。石製品は、茶臼 1 点が出土している。

表15 花沢館跡 出土遺物観察表

図版No	PLNo	グリット	遺構	層位	調査区	種類	器種	備考	整理No
18図-1	PL11-1	10J14	溝状	覆土	4	青磁	碗	龍泉窯系E類、口径14.7×器高8.2×底径6.4cm	接合No33
18図-2	PL11-3	10J13		I	4	青磁	碗	龍泉窯系類不明、底径6.2cm、内面-見込花文	10J13 I-E1
18図-3	PL11-2	10J14	溝状	覆土	4	青磁	碗	龍泉窯系D2類、端反碗、口径14.5cm	接合No32
	PL11-4	10J14		I	4	青磁	碗	龍泉窯系E類	10J14 I-E73
18図-4	PL2-13	11I10		I	4	青磁	碗	龍泉窯系C2類 口径14.7×器高3.9~4.1cm 外面-口縁部雷文帯	0411I10-4 I-E1イ、口
18図-5	PL2-13	11I15		I	4	染付	碗	端反碗B群 口径13.3×器高1.6cm 外面-口縁部〇文、内面-口縁部梵字?	0411I15-3 I-E2
18図-6	PL11-7	10J14		I	4	白磁	皿	D群丸皿 切高台 口径9.2×器高2.5×底径4.5cm、外面-腰部露胎、内面-目積痕	接合No34
18図-7	PL11-5	10J14		I	4	白磁	皿	D群丸皿、口径9.9cm、外面-腰部露胎	10J14 I-E4
18図-8	PL11-8	10J14・19	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	V期、口径40.4×器高17.2×底径15.9cm、外面-口縁部片口、内面-口縁部櫛目波状文、胴部・見込全面卸目、底部静止糸切り痕	接合No1
19図-1	PL11-9	10J14・19	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	V期、口径41.2×器高15.7×底径15.0cm、内面-口縁部櫛目波状文、胴部・見込全面卸目、底部静止糸切り痕	接合No10
19図-2	PL11-10	10J14 11I14	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	V期、口径29.0、内面-胴部卸目10条、'04年度の遺物と接合	接合No11
19図-3	PL11-11	10J14		I	4	珠洲	播鉢	V期、口径20.9cm、内面-胴部卸目9条・スス	接合No21
19図-4	PL11-12	10J14	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	V期、口径36.2cm、内面-口縁部櫛目波状文、胴部卸目11条・反時計回り	接合No5
20図-1	PL11-13	10J14・19	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	V期、口径38.3cm、外面-口縁部片口、内面-口縁部櫛目波状文、胴部全面卸目	接合No19
20図-2	PL11-14	10J14	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	VI期、口径32.8cm、内面-口縁部櫛目波状文、胴部全面卸目	接合No13
20図-3	PL11-15	10J14		I	4	珠洲	播鉢	V期、内面-胴部卸目9条	10J14 I-E40
20図-4	PL11-19	10J14	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	V期、内面-口縁部櫛目波状文、胴部全面卸目	接合No12
20図-5	PL11-16	10J14	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	V期、口径28.9cm、外面-口縁部片口、内面-口縁部櫛目波状文、胴部卸目	接合No14
20図-6	PL11-17	10J19	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	VI期、内面-口縁部櫛目波状文、胴部卸目	10J19溝5覆土-E40
20図-7	PL11-18	10J14	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	VI期、口径40.1cm、内面-口縁部櫛目波状文、胴部全面卸目	接合No7
20図-8	PL11-22	10J14・19	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	VI期、口径34.0cm、内面-口縁部櫛目波状文、胴部全面卸目	接合No6
20図-9	PL11-20	10J14		I	4	珠洲	播鉢	VI期、外面-口縁部片口、内面-口縁部櫛目波状文、胴部卸目10条	10J14 I-E58
20図-10	PL11-21	10J19	溝状	覆土	4	珠洲	播鉢	VI期、内面-口縁部櫛目波状文、胴部卸目10条	10J19溝5覆土-E35
20図-11	PL11-27	10J14		I	4	銅製品	銭	熙寧元寶(篆書) 外径2.56cm 内径2.03cm 厚さ0.21cm 重量3.5g	10J14 I-Z1
20図-12	PL11-28	10J14		I	4	銅製品	銭	元豊通寶(行書) 外径2.59cm 内径1.80cm 厚さ0.18cm 重量3.0g	10J14 I-Z4
20図-13	PL11-29		表探			銅製品	銭	元祐通寶(行書) 外径2.51cm 内径2.08cm 厚さ0.26cm 重量4.4g	表探-Z1
20図-14	PL11-30	10J14		I	4	銅製品	銭	元符通寶(行書) 外径2.30cm 内径1.83cm 厚さ0.16cm 重量2.0g	14J14 I-Z2
20図-15	PL11-31	10J14		I	4	銅製品	銭	永樂通寶 外径2.61cm 内径2.12cm 厚さ0.24cm 重量3.4g	14J14 I-Z3
20図-16	PL11-32	10J14	溝状	覆土	4	銅製品	銭	判読不明 外径2.11cm 厚さ0.16cm 重量1.7g、2枚重ね	10J14溝5覆土-Z1
	PL11-33	16G12		I	1	石製品	茶臼	高さ14.2cm 直径19.0cm 底径30.0cm 重量3.35kg	16G12 I-S1
21図-1	PL11-23		表探		4	鉄製品	鎌	長さ14.2cm 幅3.5cm 厚さ0.3cm 重量70.3g	表探-M1
21図-2	PL11-24	4 I 4	溝	覆土	3	鉄製品	釘	長さ(6.1)cm 幅(0.4)cm 厚さ(0.3)cm 重量3.2g 木質付着	414溝3覆土-M1
21図-3	PL11-25		表探		4	鉄製品	茶釜?	厚さ0.4cm 重量39.4g	表探-M2
	PL11-26	10J14		I	4	不明骨	不明	長さ2.12cm 幅0.56cm 厚さ0.26cm 重量0.3g	10J14 I-N1

表16 花沢館跡 出土遺物集計表

種類	器種	分類	破片数	種類	器種	分類	破片数	種類	器種	分類	破片数
青磁	碗	龍泉窯系D2類	2	鉄製品	釘		1	石製品	茶臼		1
		龍泉窯系E類	5		茶臼		1	石器			2
		龍泉窯系不明	1		鍋		1	自然石			2
	小	計	8		鎌		1	不明土器	不明		10
白磁	皿	D群	6		小	計	4	不明骨	不明		1
珠洲	播鉢	V~VI期	169	銅製品	銭		6	総	計		209

小 括

1. 上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）

検出遺構

【溝1】

溝1は、出土遺物から16世紀末～17世紀初頭の遺構と思われるが、同時期の溝は、平成13年度の長谷川義章氏宅調査においても検出されている。長谷川氏宅で検出された溝は、木製品が多数出土し、軸が東西方向から直角に曲がり、海へ向かって延びていることから、土地の区画や生活排水・ゴミ等を流す水路としての利用が窺える。溝1は、長谷川氏宅の溝のようなカーブは見られないが、規模などから同様の性格と思われる。

【柱列】

柱列1は、切り合い関係から柱列2より古く、柱列4は同様に柱列5より古い。

また、柱列1は切り合い関係から溝1より新しく、柱列5は洋釘が使用される木製容器を収めた土壇3より新しい。洋釘は、日本に明治10年（1877）頃に輸入し始めるので、柱列5はそれ以降に構築されたものであろう。

柱列4は、軸方向が溝1と同一方向を呈するため、溝1と併行する時期の柱列と思われる。

古い順から柱列4→柱列1・柱列3・柱列2→柱列5とし、16世紀末～近現代までの年代幅を想定した。各柱列の実年代については、柱穴からの出土遺物によっても検討すべきであるが、今回は行うことができなかつた、今後の課題としたい。

出土遺物

【縄文土器】

縄文土器は、IV群c類が主体となって出土したが、土器編年で示される前後関係を調査で確認することができなかつた。8図-11・12（PL4-2）は、一括出土品である。

【続縄文土器】

本調査では、続縄文時代の包含層を初めて上ノ

国市街地遺跡で確認することができた。9図-1・2は同一個体と思われる。

【擦文土器】

甕は、大小2法量存在し、外面の調整は土師器で多く見られるヘラ状工具によるケズリ調整である。内耳鍋は、ワシリ遺跡（口径約27cm）や米沢氏宅（口径約24cm）で見つかったものと比較すると小型の法量（口径約15cm）を呈す。

【陶磁器】

15世紀中頃では、龍泉窯系青磁碗B2・D2類、白磁D群丸皿（平高台）、古瀬戸後、古段階の灰釉卸目付大皿、15世紀第4四半期～16世紀第2四半期では、瀬戸・美濃灰釉皿、染付碗C群、16世紀第4四半期では、胎土目の唐津や大窯第4段階の瀬戸美濃などを始めとして、それ以後は肥前系陶磁器が一定量出土している。

各時期の陶磁器の出土量を見ると、15世紀第4四半期～16世紀第2四半期のものが他と比較して少ない。この時期は、勝山館跡において最も遺物量が豊富な時期であるが、今回の調査ではほとんど確認することができなかつた。

【かわらけ】

II層（近世～近現代）の出土であり、弘前城などで確認される近世のものと思われるが、筆者が近世のかわらけを実見したことがなく、結論を留保したい。

2. 史跡上之国花沢館跡

検出遺構

【柵列1】

柵列1は、平面プランやセクションから溝を掘り、杭を打ち込んで構築するタイプのもので想定した。

また、第3調査区においても杭穴を伴う溝3が検出された。溝3では、杭穴が揃わないことなどから現時点では溝としたが、柵列1が平坦面2の

北側端に位置し、その延長線上に溝3が位置すること、さらに標高約30mとほぼ両遺構ともに同じ標高値を示すといったことから、溝3は柵列1の延長部分としての可能性も考えたい。

【空壕】

空壕は、位置・堀底の形態やその規模から昨年検出した空壕（P L 2-10）の延長部分と思われる、人為的な堆積を呈し、堆積土の方向から館内側からの埋め戻しを想定した。当初、空壕館内側の地山部分に空壕に沿うように窪みが確認されたため、空壕埋め戻し時の掘削痕とも考えたが、自然のものとしての可能性もあり、今回結論をだすことができなかった。

【土塁】

土塁は、空壕を掘削した際の掘り上げ土を利用して構築している。土塁西側斜面に、土塁の崩落土が見られる。

【溝】

溝1と溝2とは、斜面直下に構築され、またその位置や軸方向から同一の溝と思われる。

溝7は、覆土にロームや玉砂利などが多く混入し、斜面を縦断するように構築されるので曲輪を往来する通路跡とも想定したが、部分的な調査のため、その詳細は不明である。通路は、大正5年

の測量図には、第3調査区を設定した舌状台地に道路跡を記している（北海道史1918）。現在では舌状台地の先端部は、国道敷設時に削平されており、館に至る通路も変更している。

出土遺物

今年度の調査では、青磁龍泉窯系碗B2・D2・E類、白磁丸皿D類（平高台）、珠洲播鉢では・期を主体として、VI期も出土している。

昨年度調査のものを含めると、青磁龍泉窯系碗C2類・皿・盤、青磁染付碗B群、瀬戸皿が加わり、これらは15世紀中頃の年代を示す遺物群である。

花沢館跡では、十三湊遺跡（1442年廃絶）や志海苔館跡（1457年廃絶）からは出土しない染付や青磁龍泉窯系碗C2類が確認されるため、15世紀後半、「コシヤマインの戦い」の後まで館が機能したことが推測される。

さらに、花沢館跡から出土する播鉢がすべて珠洲に対し、勝山館跡ではその大半が越前で構成されるため、花沢館跡は勝山館跡が築かれる1470年代より以前の廃絶が考えられる。

このことは、「新羅之記録」で花沢館跡が陥落しなかったことと符合し、また少なくとも「福山秘府」に記される蠣崎季繁の没年代の1462年頃まで館が機能していたことを窺うことができる。

まとめ

花沢館跡では、建物跡が検出されず、年代幅も短く臨時的な山城（詰城）の様相を呈するため、館主である蠣崎季繁の居館は、上ノ国市街地遺跡に存在する可能性の高いことが想定された。

出土遺物からは、文献資料と考古学の成果が一致することで花沢館跡の下限の年代を裏付けることができた。このことは、2年間の調査で最も大きな成果ではなかったかと思う。

また、第4調査区の出土遺物は、接合関係から頂上部より廃棄されたものと考えられ、逆に頂上部の遺物の集中を際立たせる結果となった。

上ノ国村史には、慶長15年（1610）3月公家の花山院忠長が流罪となり、花沢館にしばらく滞在したとある（松崎1956）。

しかしながら、昨年度からの調査で近世初頭の年代を示す遺構・遺物は確認されないため、花沢館においてそのような事実はなかったと思われる。

天ノ川左岸に位置する上ノ国市街地遺跡は、中

世において過去の住宅建替えの調査も含め、出土陶磁器が花沢館跡とともに15世紀中頃を上限とするため、十三湊遺跡の安藤氏没落後に渡道した蠣崎季繁、武田信広らによって館と同時に形成されたと思われる。

上ノ国市街地遺跡で勝山館併行期の遺物がある前後する時期と比較して少ないことは、花沢館から勝山館という臨時的な山城から恒常的な山城といった変化に城下が呼応したとも想定できるが、当時期の上ノ国市街地遺跡の町割りが不明瞭なため、それをまず明らかにする必要がある。

最後に、紙幅の関係から十分な検討を行うことができなかったが、今回調査を行なうにあたり、土地所有者の山本吉春氏、並びに上ノ国八幡宮宮司松崎辰彦氏には、多くのご支援ご協力を賜りました。

末尾ではありますが、心より感謝申し上げます。

写 真
图 版



1. 第1調査区 II層 検出 (西から)



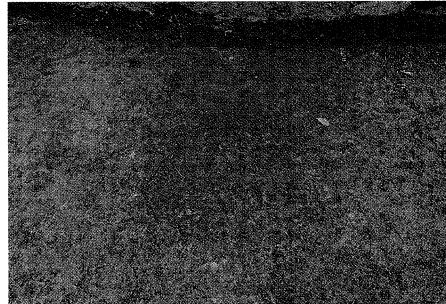
3. 第2調査区 セクション (南から)



4. 第2調査区 溝7・1 セクション (東から)



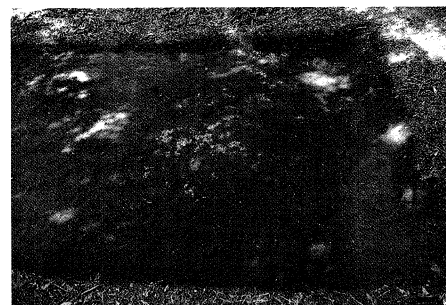
2. 第1調査区 柵列1 完掘状況 (東から)



5. 第2調査区 焼土 検出 (南から)



6. 第3調査区 溝3 セクション (西から)



7. 第4調査区 溝状黒色土範囲 検出状況 (南から)



8. 第3調査区 溝4 Ko-d 検出状況 (東から)



9. 第4調査区 空壕・溝状黒色土範囲 セクション (北から)



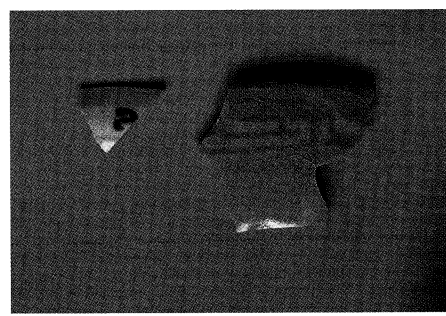
10. '04年度調査 空壕跡 (西から)



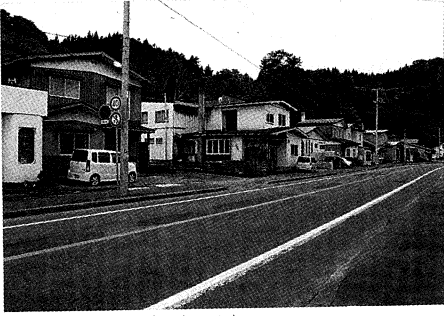
11. 出土遺物



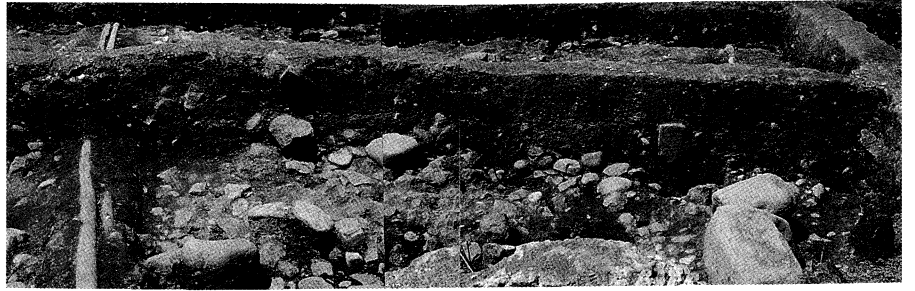
12. 出土遺物 (珠洲 播鉢)



13. '04年度出土遺物 (青磁・染付)



1. 調査前風景 (北東から)



2. I~II層 南北ベルトセクション (東から)



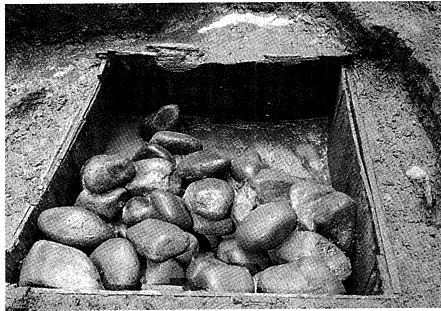
3. I~III層 東西ベルトセクション (南から)



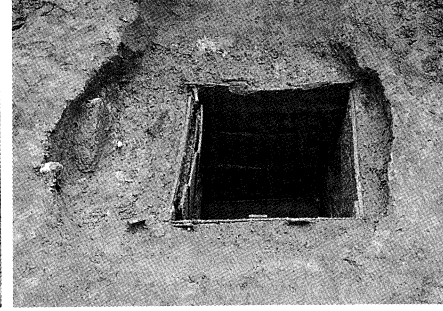
4. 土層1 (近現代) 桶 出土状況 (南西から)



5. 土層3 (近現代) (西から)



6. 井戸 (近現代) 検出 (東から)



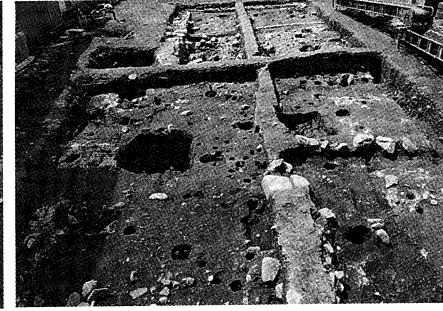
7. 井戸 (近現代) 検出 (東から)



8. Pit1 柱抜き取り穴セクション (西から)



9. II層 遺物出土状況 (西から)



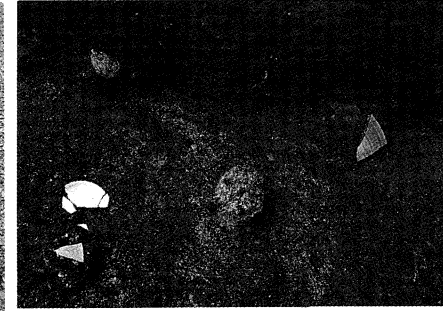
10. II層 遺構検出 (北から)



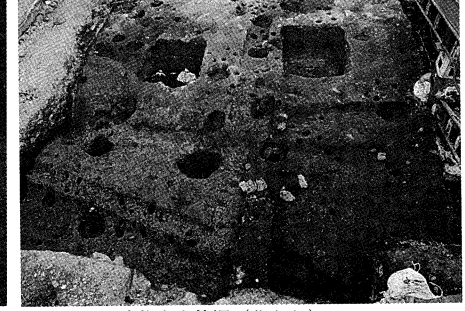
11. 溝1 セクション (東から)



12. 溝1 完掘 (東から)



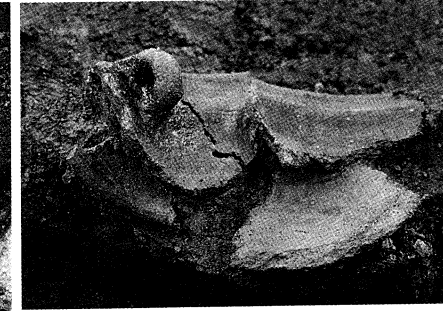
13. 灰・炭化物範囲 陶磁器出土状況 (東から)



14. III層 遺物出土状況 (北から)



15. IVa層 内耳土鍋出土状況 (南から)



16. IVa層 内耳土鍋出土状況 (南から)



17. IVa層 擦文土器一括出土状況 (北東から)



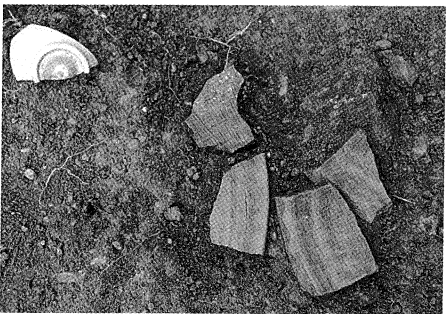
1. 第4調査区 調査前 (西から)



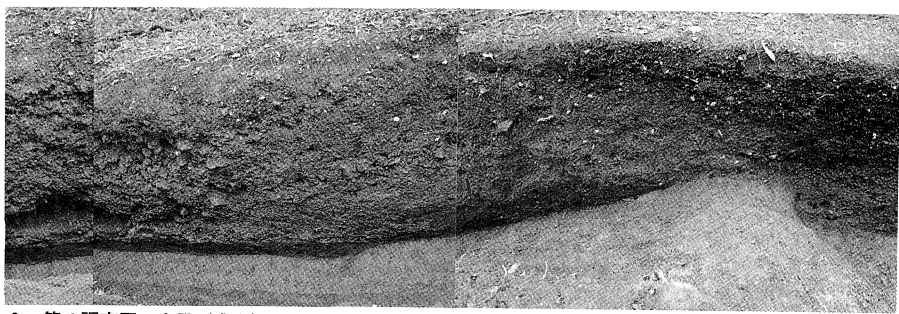
2. 第4調査区 遺物出土状況 (西から)



3. 第4調査区 溝状黒色土範囲 遺物出土状況 (北から)



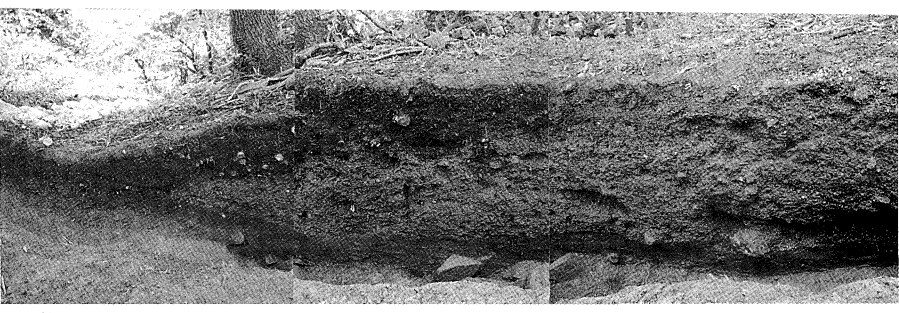
4. 第4調査区 溝状黒色土範囲 遺物出土状況 (東から)



6. 第4調査区 土塁(盛土) セクション (南から)



5. 第4調査区 空壕・溝状黒色土範囲 セクション (南から)



7. 第4調査区 土塁(盛土) セクション (6から続く) (南から)



8. 第4調査区 溝状黒色土範囲 セクション (南から)



9. 第4調査区 土擴2 検出 (南から)



12. 第4調査区 完掘 (西から)



10. 第4調査区 土擴2 セクション (北から)



11. 第4調査区 土擴1 セクション (北から)



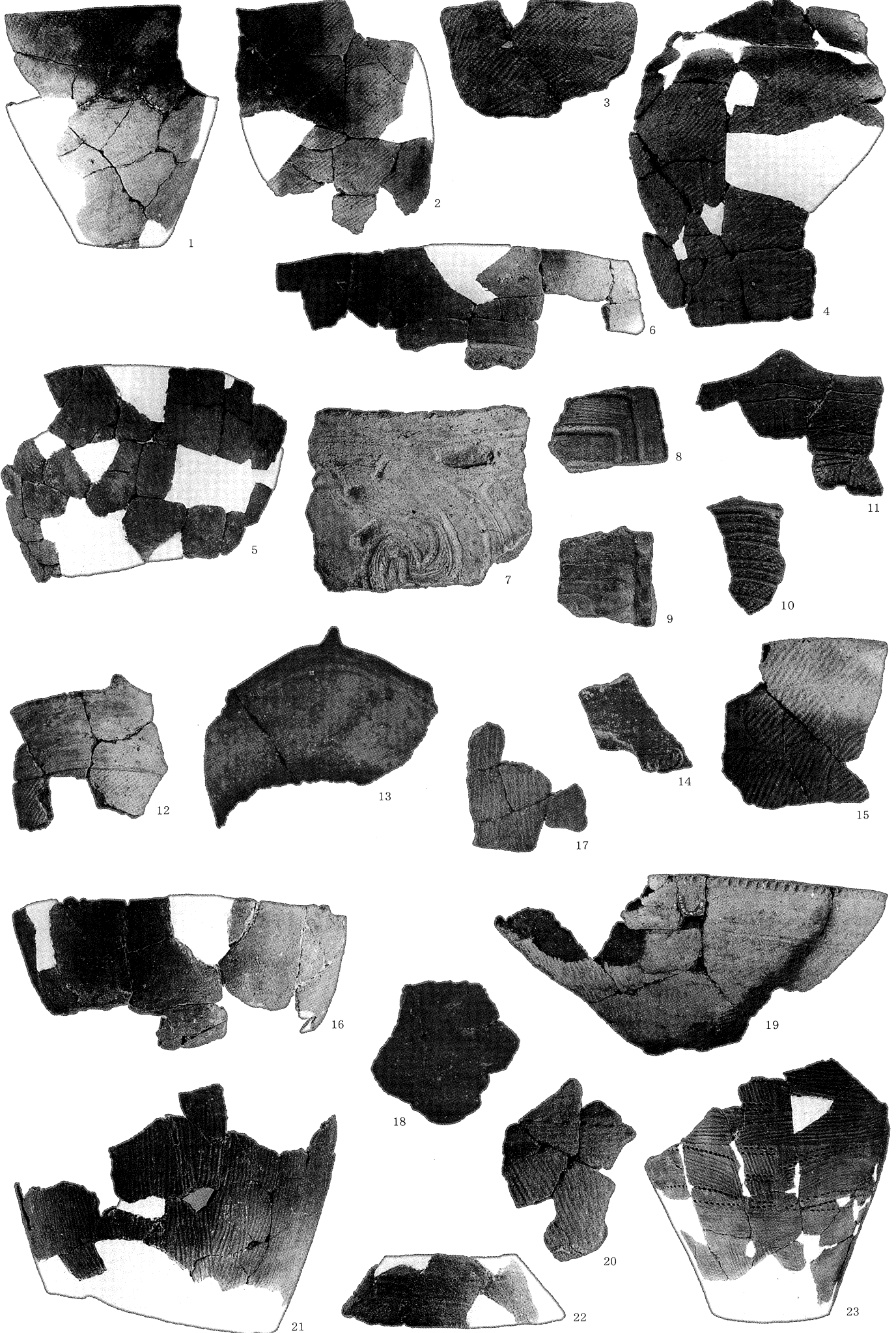
13. 第4調査区 完掘 (東から)



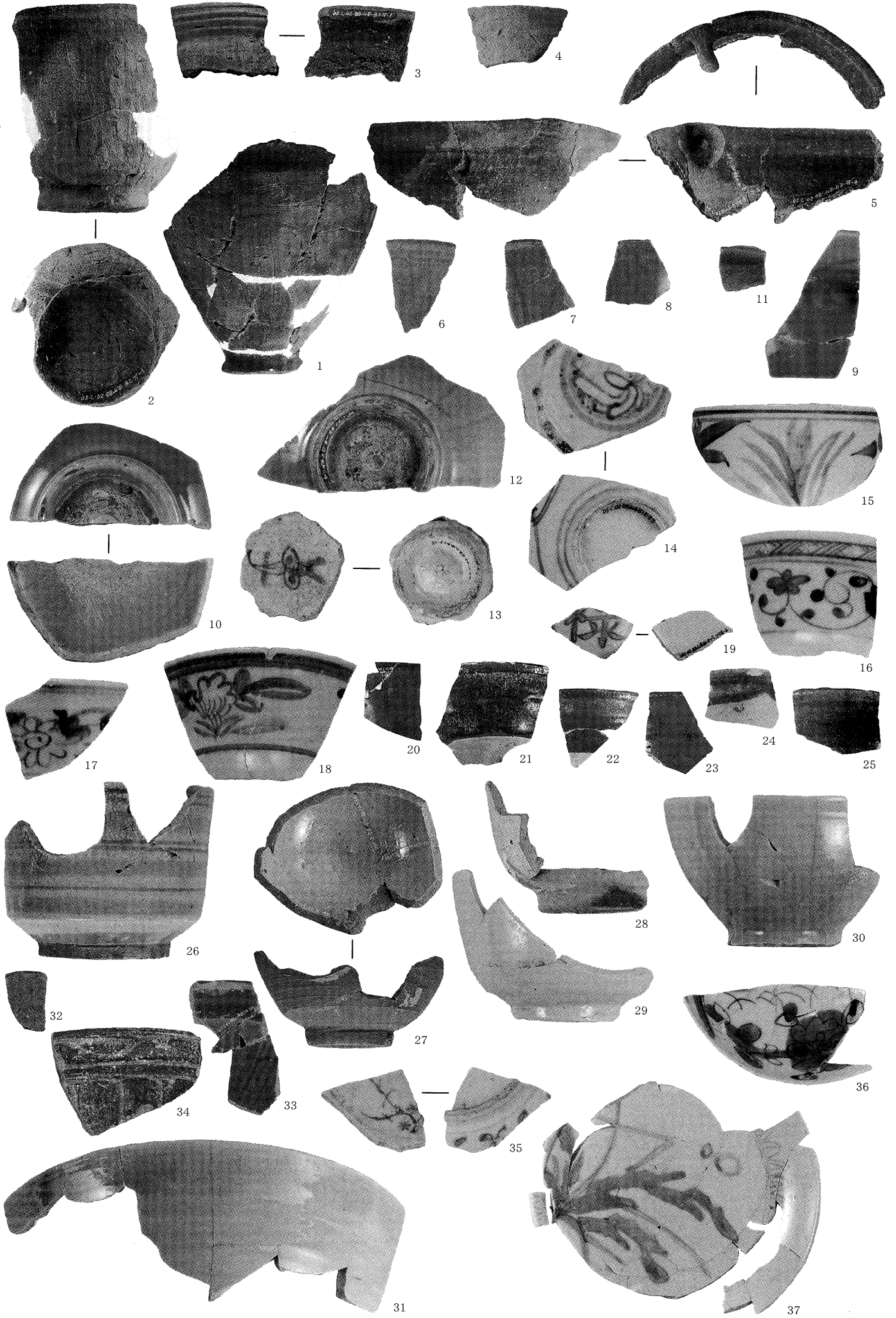
14. 第4調査区 調査風景 (東から)

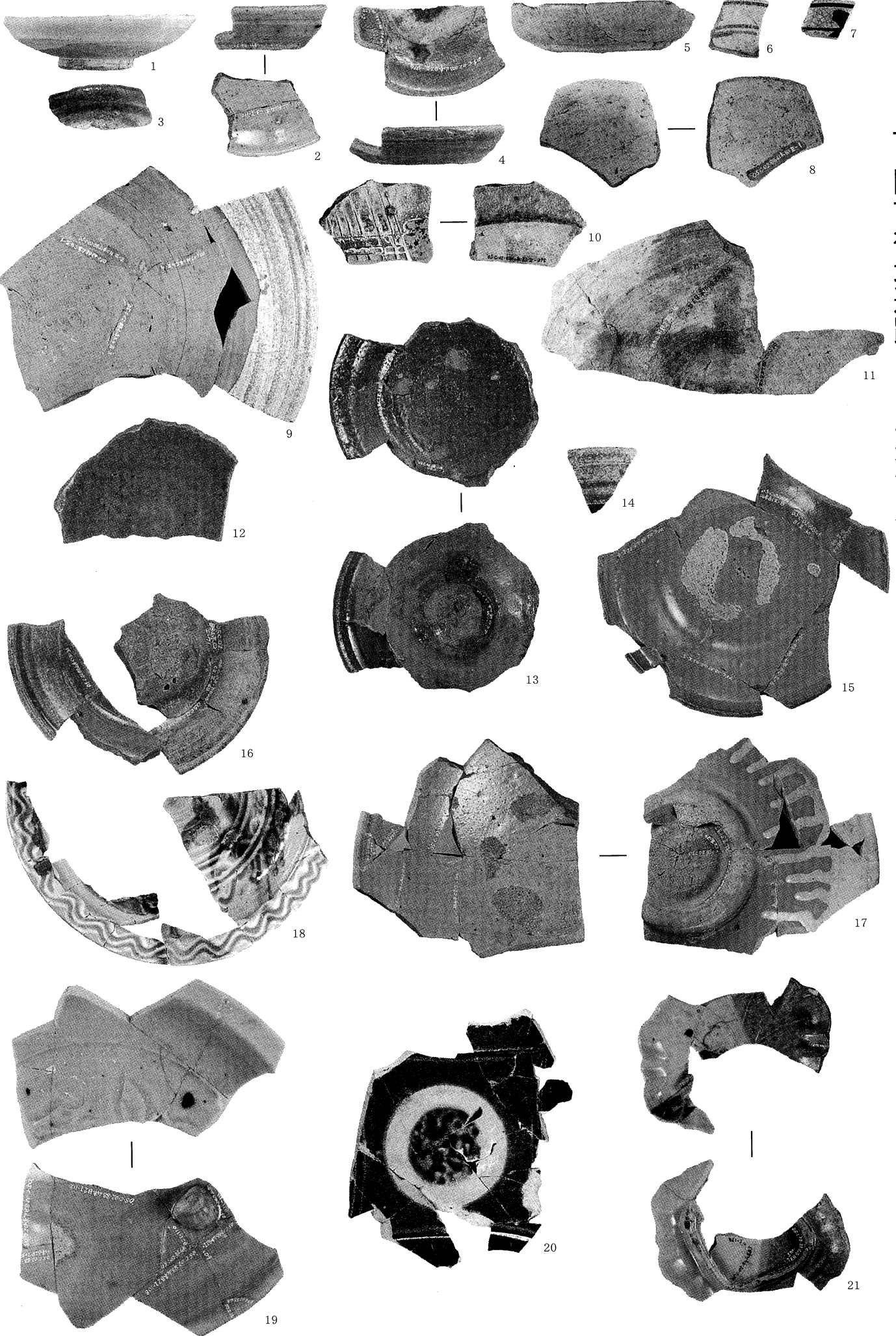


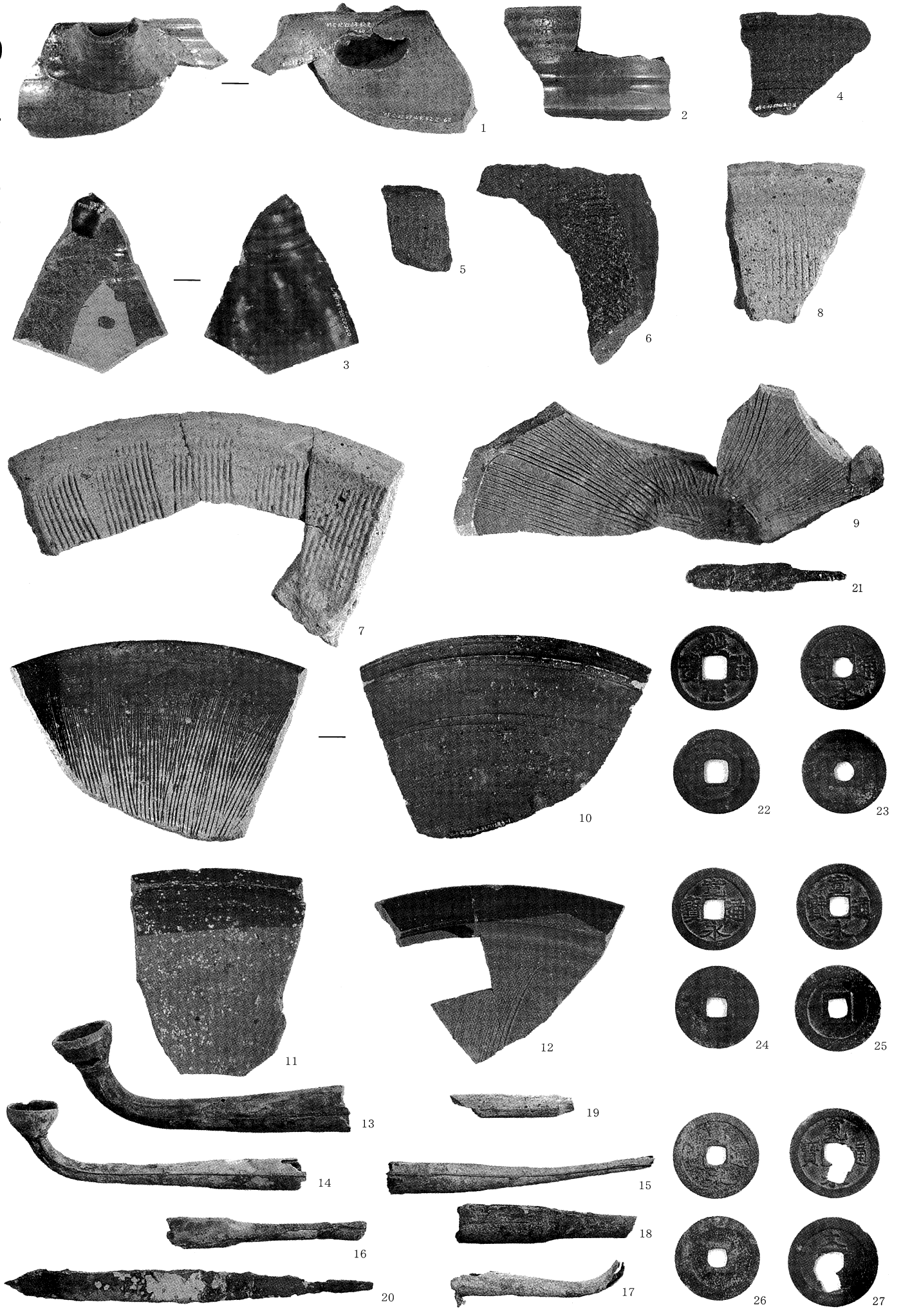
15. 現地説明会 (西から)

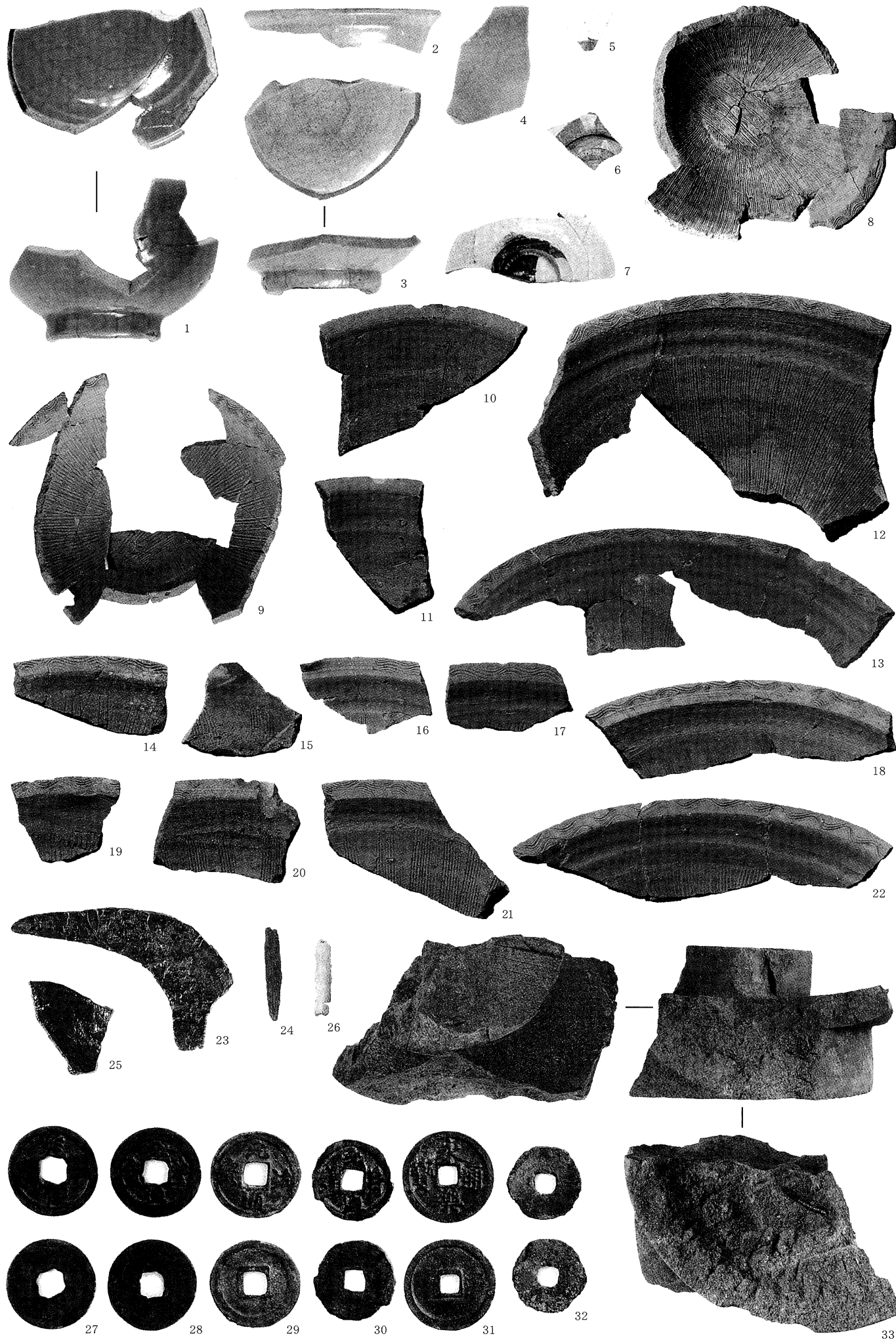


P.L. 8 上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (擦文土器・陶磁器)









報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ ちょうさへん							
書名	町内遺跡発掘調査等事業報告書Ⅹ 調査編							
副書名	上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点） 史跡上之国花沢館跡分布調査							
巻次	8							
シリーズ名	町内遺跡発掘調査等事業							
シリーズ番号	9							
編著者名	齊藤邦典 塚田直哉							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 ☎0139-55-2230							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
かみくに 上ノ国 しがいちいせき 市街地遺跡 やまもとよしはるし (山本吉春氏 たくちてん 宅地点)	かみくにちようあざかみくに 上ノ国町字上ノ国 227-1他	013625	C-02-88			平成17年6月 15日～平成 17年7月15日	85㎡	町内遺跡発 掘調査等事 業
しせきかみのくに 史跡上之国 はなざわたてあと 花沢館跡	かみくにちようあざかつやま 上ノ国町字勝山 172-1、173	013625	C-02-70			平成17年7月 25日～平成 17年9月16日	260㎡	町内遺跡発 掘調査等事 業
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上ノ国 市街地遺跡 (山本吉春氏 宅地点)	遺物包含地	縄文 続縄文 擦文 中世 近世	溝 柱穴	土器・石器 縄文土器、続縄 文土器 擦文土器 陶磁器・土器 青磁、白磁、染付、 瀬戸・美濃、珠洲、 越前、備前、志野、 唐津、肥前系陶磁 器他、かわらけ 鉄製品 鋸、釘、刀子、鍋、 ヤス?、鏝他 銅製品 煙管、釘、筭、銭他 骨角器、漆器、陶 錘、須恵器 その他				
史跡上之国 花沢館跡	城 館	中世	空壕、土塁、柵列 土壇、溝、柱穴他	陶磁器 青磁、白磁、珠洲 鉄製品 釘、鎌、茶釜? 銅銭、茶臼、石器 不明土器、不明骨				

町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅹ 調査編

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）
史跡上之国花沢館跡分布調査

発行 上ノ国町教育委員会
北海道桧山郡上ノ国町字大留100
印刷 平成18年3月28日
発行 平成18年3月31日
印刷所 (株)第一印刷

